

非常通報装置

WhiteLock21N

取扱説明書



製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに（必ずお読み下さい）

この度は、「WhiteLock21N」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

本製品は、外部からの入力信号に応じて一般電話回線や MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)から携帯電話機、PHS 電話機、一般電話機などに音声や携帯メールで自動通報する装置です。

製品は一般回線用 (WhiteLock21NA) と、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)用 (WhiteLock21ND) の 2 つのタイプがあります。この説明書は両タイプ兼用となっております。

本製品は、ご購入直後の状態ではそのまま使用することができません。製品サイトより設定用ソフトウェアをダウンロードしていただきパソコンにインストールし、設定を行う必要があります。

また、音声通報する場合は録音も行ってください。

設定後は本書の説明にしたがって動作確認をしてからお使いください。

本書では、一般回線用 (WhiteLock21NA) を「WL21NA」、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)用 (WhiteLock21ND) を「WL21ND」、タイプに依存しない場合は「WL21N」と記述しているところがあります。

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。

この説明書はお読みになった後も、本製品のそばなどいつも手元においてお使いください。

製品バージョンの確認や最新情報

製品のバージョンアップ及び特殊仕様のリリース情報は、ホームページでお知らせします。

「WhiteLock21NA」を内線で使う場合

PBX で使用される場合、「PBX での使用について」13ページをご覧ください

「WhiteLock21ND」に接続する MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)について

＊接続できるのは、「ドコモ」の MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)のみになります。詳しくはホームページ <http://www.adocon.jp/> の「対応携帯電話機」をご確認ください。

＊MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)に付属している AC アダプタ(バッテリーではありません)の出力電圧が 5.5V～5.7V の範囲でないときは、69ページの説明に従って設定してください。

携帯メールについて

ドコモの『ショートメール』サービスは2012年3月31日をもって終了します。2012年4月1日以降はご使用出来なくなりますのでご注意ください。メール通報が必要な場合は、弊社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。(システムの詳細はホームページでご確認下さい)

設定ソフトでは他の携帯メールの設定が表示されますが、サービスが終了している為にドコモのショートメール以外のご使用できません。

また、ショートメールセンターによる障害・工事によって使用出来ない場合や、サービス停止や中止した場合の保証は、弊社では承りませんのでご了承下さい。

※契約電話回線がNTT以外の場合、メールセンターに接続出来ない事があります。(Aタイプ)

雷による故障について

雷による故障は保証期間内であっても保証対象外となります。

一般回線用をお使いの場合は電源用と回線用の避雷器を取り付けられる事をおすすめします。

MOVA 携帯電話機(2012年3月末停波)用をお使いの場合は電源用避雷器を取り付けられる事をおすすめします。弊社では避雷器を販売しておりませんので別途ご用意下さい。

よくある質問と答え

※呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる

通報先の呼出音を3回以上鳴らしてから受話器をとってください。受話器をとるのがはやい何回も電話をかけてしまいます。

※AタイプとDタイプの区別の仕方

電源スイッチを入れて「録音再生ランプ」が一瞬点灯する場合は「WL21ND」です。点灯しない場合は「WL21NA」です。

※通報先に番号非通知で電話がかかる

通報先の電話番号の先頭に186を付けてください。(Dタイプ)

製品の最新情報、バージョンアップはインターネットでご確認できます。

製品ホームページ <http://www.adocon.jp/>

※本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

※本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

特 徴

- **用途に応じた2タイプ**

MOVA携帯電話機(2012年3月末停波)から通報する「WL21ND」と一般回線から通報する「WL21NA」があります。

2つのタイプは、使用する回線の種類が異なるだけで、その他の仕様はほとんど同じです。

「WL21NA」は、PBX交換機の内線間の通報や外線へ接続するときの発信機能を装備しています。

- **接点入力8点+電池電圧低下通報+センサー用電源出力**

入力点数が8点もあるので、様々なセンサーや機器類も接続できます。

入力8は入力接点と電池電圧低下通報に切り替えられます。

また、センサー等の電源供給用として電源出力を装備しています。

- **外部入力毎にI C録音された内容で自動通報**

圧縮無し直接録音方式で音質良好。録音は何度でも可能、録音内容は半永久的に保持。

- **最大6ヵ所までの通報が可能**

「WL21ND」、「WL21NA」とも最大6ヵ所までの通報先の指定が可能です。

- **通報終了の条件も指定可能**

通報先毎に「必ず通報」するか「何所か1ヵ所」に通報できたら終了を選べます。

- **携帯メールへの通報も可能**

英数カナ漢字文字で通報。全角半角にかかわらず50文字のメッセージを送信可能です。

- **テレコンも可能（制御出力4点）**

「WL21NA」に一般回線や携帯電話で、「WL21ND」には一般回線で電話をかけ、プッシュボタンで動作をコントロールできます。

*テレコン（テレコントロール）：外出先から電話を使って、機器の状態を確認したり制御したりすることです。

- **動作確認**

自動着信により、現在の入力信号の状態、停電状態を音声で確認できます。

- **「WL21ND」ではMOVA携帯電話機(2012年3月末停波)への繰り返し自動充電機能付き**

長期にわたってメンテナンスフリーで使えます。

- **停電保証1時間以上を確保、バックアップ電池付き**

006P型ニッケル水素充電電池を標準添付。

- **停電・復電通報を標準装備**

外部から停電信号を接続したりする必要がありません。設定ソフトにチェックを入れるだけで有効となります。

- **小型で制御盤内への組込が容易**

本体重量は約600gと軽量です。本体サイズも非常にコンパクトなので制御盤内への取り付けも簡単に行えます。また、取付金具も付属しています。

- **設定用パソコンソフト (Windows 98SE、Me、2000、XP、Vista 用)**

設定ソフトはインストールも設定もとても簡単です。

最新の設定ソフトは、弊社製品サイトからいつでもダウンロードしてご利用できます。

製品には、通信ケーブルも標準添付しています。

- **入力信号の選択が可能**

入力がONになったときに通報するか、OFFになったときに通報するか入力毎に個別に設定が可能。設定ソフトにチェックを入れるだけで切り替えできます。

- **低価格**

他社の半分以下の超低価格。もう通報装置にお金をかける必要はありません。

目 次

ご使用の前に.....	9
略称、商標について.....	9
制限事項.....	9
安全にお使いいただくために必ずお守りください.....	10
設置場所について.....	11
お願い.....	11
パッケージ内容の確認.....	12
PBX での使用について.....	13
各部の名称とその機能.....	15
本体外観.....	15
動作設定.....	16
設定ソフトのインストール.....	16
弊社ホームページの「ダウンロード」を利用する場合.....	16
CD-ROM からインストールする場合.....	17
設定プログラムセットアップ.....	18
設定に使用するパソコン.....	20
設定ソフトウェアの起動.....	20
通報先の設定.....	22
通報先の種別.....	22
通報先の電話番号.....	23
通報終了条件.....	25
外線発信番号(WL21NA のみ).....	25
携帯メールセンター.....	26
WhiteLock 集中監視専用モデムへ通報する場合.....	27
全体の設定.....	28
電源 ON 時に 60 秒間、入力信号を無視する.....	28
停電や復電時に通報する.....	28
電話回線の種類.....	28
解除呼出の方法.....	29
入力信号の接点仕様.....	29
入力信号のチャタリング時間（ミリ秒）.....	30
テレコン.....	30
送信メッセージの編集.....	31
文字の種類.....	31
識別コード.....	32
入力信号 1～8.....	32
全解除.....	32
停電・復電.....	32
文字数.....	33
表示サンプル.....	33
テスト文字列設定.....	33
通信ポートの確認.....	34

通信ポートを自動的に検出する	34
通信ポート指定	34
本体とパソコンの接続	34
設定内容の転送	35
本体から設定内容を読み込む	37
設定内容の保存と読み込み	38
録音再生	40
録音再生の操作方法	42
動作確認	43
全体接続イメージ	43
呼出の種類と通話料金	44
通報の種類	44
音声通報	44
携帯メール	44
タダ電通報	44
WhiteLock 集中監視システムへの通報	44
通報の手順	45
標準設定の時	47
全解除呼出設定	47
個別解除呼出	48
停電時発信	49
電池電圧低下通報	49
1 回の通報にかかる通話時間	49
通報終了の条件	50
1 つの通報先を終了する条件	50
複数の通報先を終了する条件	50
通報を終了するまでに発生したイベント	52
注意事項	52
テレコン	53
入力信号の状態を確認するとき	53
入力信号の状態を音声で聞く	53
パスワードを間違えた場合	54
出力信号を ON、OFF するとき	54
パスワードを間違えた場合	55
コマンドを間違えた場合	56
注意事項	56
設置方法	57
設置場所を決める	57
制御盤などに設置する場合	57
接続工事	57
本体側の MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)「WL21ND」	57
本体側の電話回線「WL21NA」	57
他の電話機や FAX などの回線と併用するとき「WL21NA」	57

電話回線の終端に接続する場合「WL21NA」.....	58
モジュージャックを分配する場合「WL21NA」.....	58
入力端子接続.....	59
センサー用電源出力+端子と制御出力のC端子.....	60
電池電圧低下通報.....	60
信号入力内部回路.....	61
ACアダプタの接続.....	61
信号出力内部回路（テレコン制御出力）.....	62
運転の開始.....	62
通報の受信.....	63
受信装置.....	63
音声通報を電話機で受信したとき.....	63
携帯メールを通報先に指定した場合.....	63
識別コード部の表示について.....	63
メッセージ部の表示について.....	64
携帯メールを通報先に指定した場合のご注意.....	64
動作モニタ.....	65
表示モニタランプ.....	65
起動時.....	65
設定スイッチ ON で起動したとき.....	65
通報の状態から見たとき.....	66
ランプの点灯状態から見たとき.....	66
停電保証について.....	67
停電保証充電電池.....	67
Dタイプのみ必要な設定.....	68
MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の設定.....	68
MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の接続.....	68
MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)への充電.....	68
MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の充電電圧の設定.....	69
使用上の注意事項「WL21ND」.....	69
Q&A 困ったときにご覧ください.....	70
タイプ共通.....	71
一般的なご質問.....	71
通報・設定についてのご質問.....	74
携帯メールについてのご質問.....	77
テレコンについてのご質問.....	79
一般回線タイプ「WL21NA」についてのご質問.....	80
MOVA 携帯タイプ「WL21ND」についてのご質問.....	82
設定ソフトについてのご質問.....	85
こんなときには.....	86
設定ソフトウェアのアンインストール.....	86
本体を清掃するときは.....	86

仕様.....	87
「WhiteLock21N」本体.....	87
設定ソフトウェア	88
インターフェース仕様.....	88
外形図.....	89
AC アダプタ外形図.....	90
付録.....	91
文字コード.....	91
更新履歴	92
バージョン	94

ご使用の前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

制限事項

- 本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。
- 本体と接続可能な電話機（回線）は下記の通りです。

「WL21NA」の場合

1. NTT 仕様で 2 線式のプッシュ回線またはダイヤル回線です。
ADSL 回線・ISDN 回線・IP 電話・光電話の場合は、専用の信号変換機器やモデム、TA 等のアナログポートに接続できます。
2. アナログ PBX 交換機を介して接続する場合には、NTT 仕様に準拠したものでなければなりません。詳細は、「PBX での使用について」13 ページをご覧ください。
3. 一般回線、携帯電話からのテレコンが可能です。

「WL21ND」の場合

1. ドコモの MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)のみに接続できます。MOVA 携帯電話機の種類によっては、正常に動作しない機種もありますのでご注意ください。
2. 使用できる MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)については弊社製品サイト内「対応携帯電話機」でご確認下さい。<http://www.adocon.jp/>
3. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)に付属している AC アダプタ(バッテリーではありません)の出力電圧が 5.5V～5.7V の範囲でないときは、69 ページの説明に従って設定してください。
4. 一般回線電話からのテレコンが可能です。携帯電話からは使用できません。

- このような場合は利用できません。(接続すると本体が故障する場合があります。)

「WL21NA」の場合

1. 携帯電話機、PHS、ビジネスホン回線、ホームテレホン回線、4 線式電話機、専用線に接続することは出来ません。

「WL21ND」の場合

1. 使用できない MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)については弊社製品サイトを参照してください。
<http://www.adocon.jp/>
2. 携帯電話から WL21ND に電話をかけてテレコンは使用できません。

本体の操作について

- 電源スイッチを OFF にした直後に ON にすると内部 CPU が正しく起動しないことがあります。電源スイッチを OFF にして、再び ON にする際には OFF の後 3 秒以上待って ON にして下さい。
- 電源プラグを差し込む場合は本体の電源スイッチを OFF にした状態で差し込んでください。
- 設定ソフトで設定を行った後は実際に発信させて受信できるか確認して下さい。
- 接点毎に異なる通報先の設定はできません。
- 出荷状態では設定されていません。この状態では入力信号が「有り」になっても通報しません。
- 再呼出機能については、同一の通報先を複数設定することにより対応しています。

本体内蔵の充電池について

- 出荷時には完全に充電されておりませんのでご注意ください。商用電源（AC アダプタ）を接続して、72 時間（3 日間）経過すれば満充電となります。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本商品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。
間違った使い方をされますと、感電、火災や機器の故障が発生するおそれがあります。
安全にお使いいただくために必ずお守りください。

- ・ 本商品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないでください。また、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)を利用する際には電波の影響を受けやすい機器などの近くでのご使用はお止めください。
- ・ 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、生じた損害につきまして、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本体もしくはそれに接続されている部分から異臭、過熱や煙が出る場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
- ・ 本体、及び付属機器を分解・改造しないでください。
- ・ 本体は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
- ・ 本体内部に異物等が入らないようにご注意ください。
- ・ AC アダプタは必ず付属のものをご使用ください。他の製品の流用や改造してのご使用は絶対にお止め下さい。
- ・ 通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。ご利用の前には設定後に動作試験（メール通報の場合メールの受信を確認してください）を必ず実施してからご使用下さい。また通報先に登録してある電話の解約の際には通報装置の設定修正・動作試験を行ってください。

設置場所について

本体を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になるなど、おもわぬ火災や故障の原因になったりする場合があります。

- ・ 急激な温度変化や湿度変化がある場所。
- ・ 結露するような場所。
- ・ 直射日光が当たる場所。
- ・ 水気、火気のある場所。
- ・ 粉塵等のほこりの多い場所。
- ・ 不安定な場所や振動がある場所。
- ・ 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。
- ・ 腐食性ガスのある場所。
- ・ 気化した薬品や化学反応をおこす様な場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

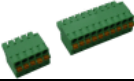
本体に接続する MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の設定などは、MOVA 携帯電話機付属の説明書をお読みください。

本体やケーブル等は、小児の手が届かない場所に保管、設置してください。

長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守・点検を行ってください。

パッケージ内容の確認

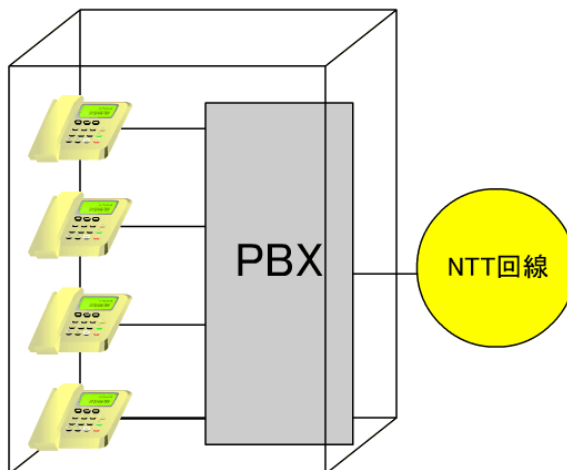
製品をご使用になる前に、パッケージに以下のものが全て揃っているか確認してください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

名称		WL21NA	WL21ND
本体		☐	☐
取り付け金具		☐	☐
通信ケーブル		☐	☐
AC アダプタ		☐	☐
イヤホンマイク		☐	☐
端子台ソケット (本体に取り付け済み)		☐	☐
モジュラーケーブル		☐	—
携帯ケーブル		—	☐
停電保証充電電池 (本体に内蔵済み)		☐	☐
保証書	—	☐	☐

- * 上図は、実際のものと多少形状等が異なる場合がありますのでご了承ください。
- * MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)は本製品に付属しておりません。
- * **取扱説明書、設定用ソフトウェアは本製品には付属しておりません。**
取扱説明書、設定用ソフトウェアは製品のページから最新版をダウンロードしてお使い下さい。
製品サイト <http://www.adocon.jp/>
取扱説明書 (A5 版) や、設定用ソフトウェア (CD 版) を別途購入して頂くことも可能です。ご購入の際には販売店、または弊社までお問い合わせ下さい。

PBX での使用について

PBX（構内交換機）とは、同一のビル内、工場内などで使う内線電話の交換機のことです。



WhiteLock21NA は NTT 仕様の回線で動作するように設計されていますので、内線でも使用することができます。しかし、PBX の機種によっては使えない場合がありますのでご注意ください。

使用出来る PBX の確認方法

まず、NTT の電話機（家電量販店・ホームセンターなどで市販している物）を内線へつなぎ、外線へ電話がかかるかを確認下さい。外線へ電話がかかれば、次に『PBX の仕様』を PBX の管理業者又は、メーカーへご確認ください。

PBX の仕様で確認するところ

受話器を上げたとき	DT（発信音）…400Hz の連続、または、 PDT（内線発信音）…400Hz 0.25 秒 ON 0.25 秒 OFF の繰り返し音が聞こえること。
相手が話中のとき	BT（話中音）…400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF の繰り返し音が聞こえること。
相手を呼び出しているとき	RBT（呼出音）…400Hz 1 秒 ON 2 秒 OFF の繰り返し音が聞こえること。
相手が電話を切断したとき	BT（話中音）…400Hz 0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF の繰り返し音が聞こえること。数回鳴って無音になってしまう PBX は使えません。

- ※ 発信音が 500Hz の PBX や、話中音が 440Hz の PBX もあります。これらは PBX のメーカーに問い合わせてください。また、上記説明で、0.25 秒のところが 0.2 秒の PBX がありますが、これは使用できません。
- ※ 発信音がこの条件と異なる場合、PBX の設定で変更可能な場合があります。PBX のメーカーか設置業者に問い合わせてください。
- ※ 音声通報の場合、通報を受けた電話機で # を押すと通報終了となります。PBX で電話を切ったあとの話中音の周波数が違う場合でも、# を押すことで通報終了とさせることができます。

その他の注意点

外線で電話番号の最初に「186」を付けると電話がかからないPBXもあります。この場合は「186」を付けない設定で使用してください。

外線発信を行う設定にすると、通報装置は指定番号の発信を行ってから約1秒待ってダイヤルを開始します。外線発信番号と待機時間は設定で変更できます。

携帯メール（ショートメール）を使用する場合

内線から携帯メールを送信する場合、一般回線から携帯メールを送る場合とタイミングが異なり、正常に送れない場合があります。これは電話をかけてから実際につながるまでの時間が、一般回線からと内線からでは違うためです。

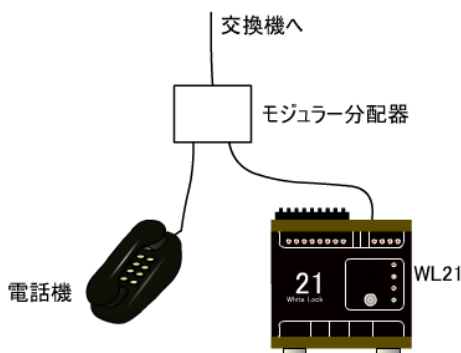
設定ソフトで WhiteLock21NA が送信する電話番号や送信メッセージを設定します。また、送信するタイミングも設定ソフトで調節することができます。

以下のやり方でタイミングを調節してください。

まず、通報しているときの音声をモニター（聞く）する必要があります。

モジュラー分配器を用意して図のように接続します。

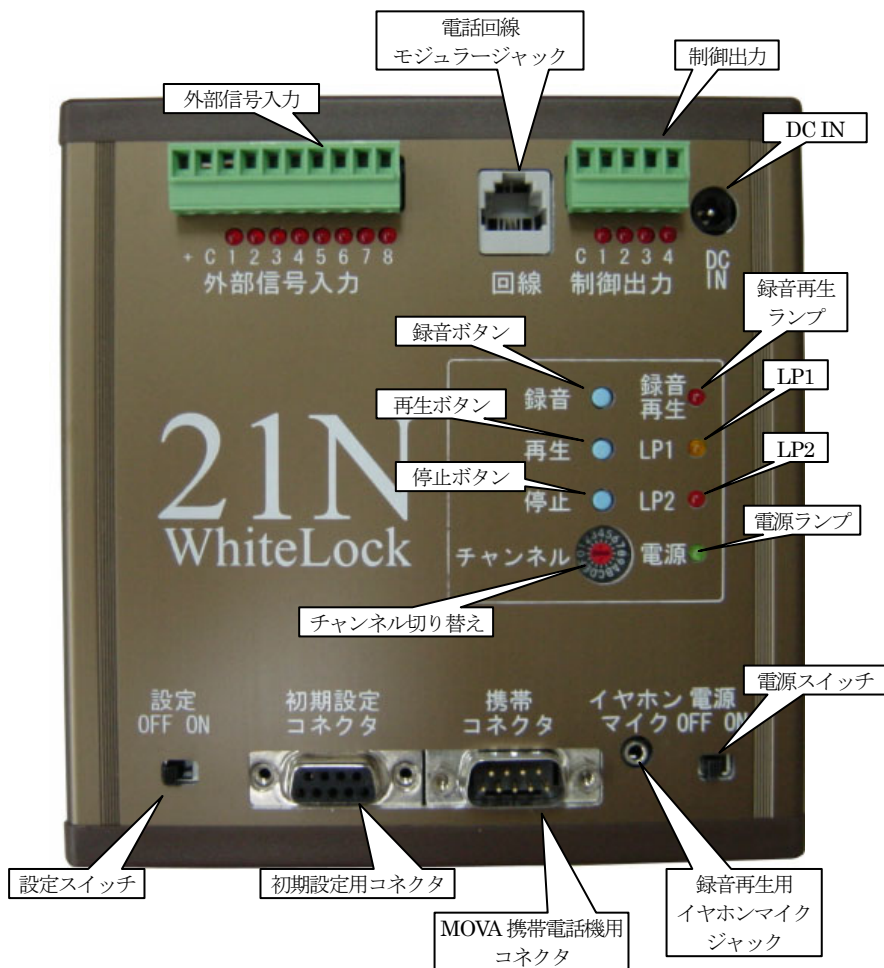
※WhiteLock21NA に通報先1ヶ所（携帯メール）を設定ソフトから転送しておく必要があります。



1. 電話機の受話器は下ろした状態にしておきます。
2. WhiteLock21NA にテスト信号を入れます。（COM と入力1 をリード線で短絡します。）
3. WhiteLock21NA の LP1 が点灯したら電話機の受話器を取り、電話のやり取りを聞きます。
4. 「メールセンターへ電話がかかるか。」「センターからアナウンスが聞こえるか。」などを確認します。
5. タイミングの調節は設定ソフトの携帯メールセンターを「ユーザー設定」にしてから、手順文字列を変更することで可能です。

各部の名称とその機能

本体外観



動作設定

本装置は、ご利用の前に受信装置の種類や電話番号、メッセージなどを登録しておく必要があります。この登録は、パソコンに「設定ソフトウェア(Windows 98(SE)/Me/2000/XP/Vista 用)」をインストールしたもので行います。設定ソフトウェアは弊社ホームページからいつでもダウンロードできます。設定ソフトウェアは、一般回線タイプ「WL21NA」及び MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)タイプ「WL21ND」共通です。

ご自分で設定ができないときは、パソコンを持っている方をお願いするか、弊社に設定をご依頼ください。また、御購入後の変更依頼も承ります（どちらも有料で、別途送料が必要です）。

設定ソフトのインストール

設定ソフトをパソコンにインストールするためには、インストーラーソフトを入手する必要がある有ります。入手する方法は以下に述べる様に弊社ホームページから「ダウンロード」する場合と、CD-ROM（別売品）を使用する場合の 2 通りがあります。インストール方法は何れも同じです。

※ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。

弊社ホームページの「ダウンロード」を利用する場合

弊社ホームページのトップ画面から「ダウンロード」→「設定ソフト」→「WhiteLock21N」を選択します。次に「設定ソフト README.txt」をクリックすると、インストール方法の説明が表示されますので、内容を確認した後に「設定ソフトダウンロード」をクリックします。

ここでパソコンに保存してからセットアップを行いたいときは、ファイルのダウンロード画面で、「保存」ボタンを押しますと「名前を付けて保存」の画面が表示されます。パソコンの適当なフォルダ（C:\TMP など）を指定して「保存」ボタンをクリックします。

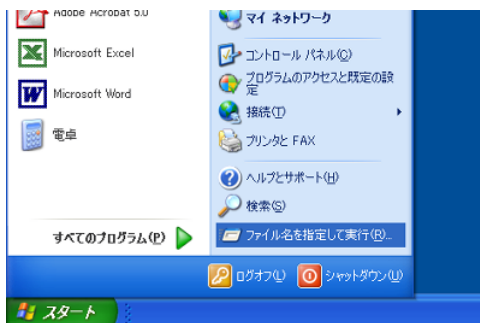
保存したフォルダの[WL21Nvxxx.EXE]（xxx はバージョン番号が入ります）をダブルクリックするとセットアップが始まります。ここからは本説明書の設定ソフトウェアの起動18ページ「設定プログラムセットアップ」から参照下さい。

パソコンに保存せずにインストールを開始したいときは、ファイルのダウンロード画面で、「実行」ボタンを押します。ここで「発行元を確認できませんでした・・・」が表示されたら「実行する」をクリックします。「セットアップファイルの解凍を始めますか?」に対して「はい」をクリックします。解凍先のフォルダを聞いてきますので、パソコンの適当なフォルダ（C:\TMP など）を指定して「OK」ボタンをクリックします。しばらく待つと、セットアップが始まります。ここからは本説明書の18ページ「設定プログラムセットアップ」から参照下さい。

CD-ROM からインストールする場合

ソフトウェアをインストールする前に、実行中のアプリケーションを全て終了して下さい。

CD-ROM からインストールする場合は、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行(R)]を選択します。



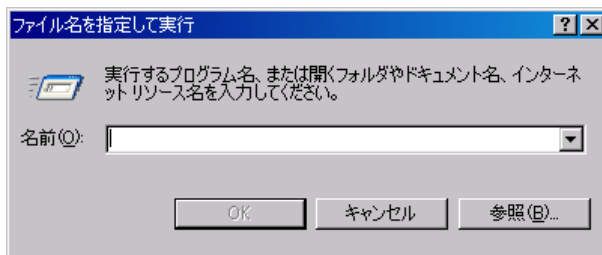
「ファイル名を指定して実行(R)」のウィンドウが表示されたら、「参照」をクリックします。

「ファイルの場所」で「マイコンピュータ」を選択し、その中にある DVD-RW ドライブを開きます。

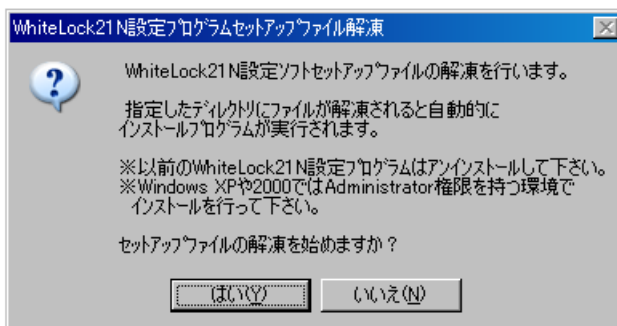
DVD-RW 内の「WL21Nvxxx.EXE」を選択して開きます。

* ファイル名の説明で xxx には実際のバージョン番号が入ります。

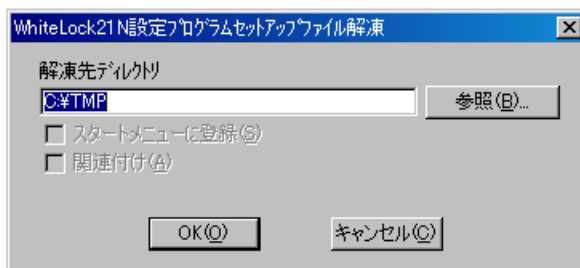
「名前」に場所の指定をしたら「OK」をクリックします。



[OK] ボタンをクリックしてからしばらくすると次の画面が表示されます。

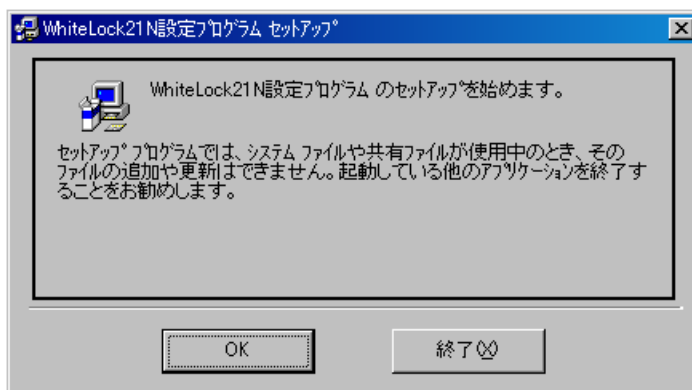


「はい」をクリックします。解凍先を聞いてきますので適当なフォルダを指定します。
下記の例では「C*¥TMP」としています。



設定プログラムセットアップ

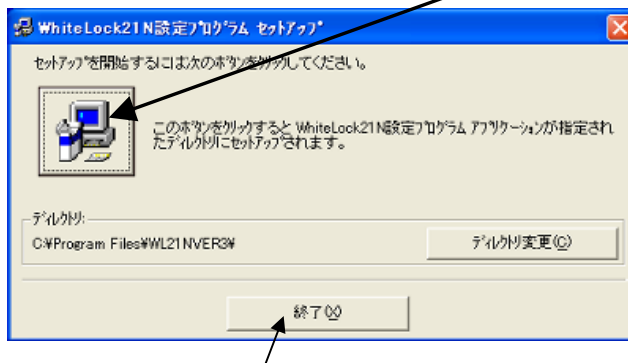
以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



[OK]ボタンをクリックすると下記の画面が表示されます。

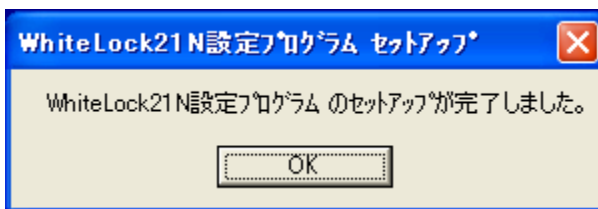
インストール先のディレクトリを変更したい場合は、[ディレクトリ変更(C)] ボタンをクリックして変更します。

設定ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定して大きなボタンをクリックします。



インストールを中断しない限り、[終了(X)] ボタンをクリックしないで下さい。このボタンをクリックすると、インストールせずに終了してしまいます。

セットアップ完了画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックしてセットアップが終了したら、パソコンを再起動させて下さい。



設定に使用するパソコン

設定を行う場合、以下の仕様のパソコンが必要です。

CPU	66MHz i 486DX 以上 (Pentium 以上を推奨)
OS	日本語 Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000 (SP1 以降) Windows XP、Windows Vista
ハードディスク	インストールに 7M バイト程度の空きエリアが必要
メモリ	実装メモリ 64M バイト以上
モニタ	解像度 800×600 ドット以上が表示可能なカラーディスプレイ
ビデオカード	800×600 ドット以上で、256 色以上が表示可能なもの
コミュニケーション ポート	COM ポート D-sub 9 ピンが必要 (設定内容を転送する時に使用) ※通信ケーブルは本製品に付属しています

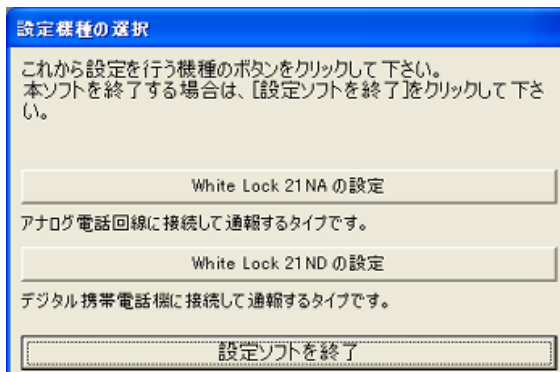
- * 既にインストール済みのソフトウェアやハードウェアの設定、その他の状況により、設定ソフトが正常に動作しない場合もあります。
- * パソコンのコネクタが D-sub 25 ピンの場合は、D-sub 25 ピン → 9 ピンの変換コネクタを別途ご準備下さい。
- * パソコンのコネクタに COM ポートがなく USB ポートしかない場合、USB ポート→D-sub9 ピン変換ケーブルを別途ご準備下さい。必ず変換ケーブルに付属されているドライバーをインストールしてからご使用下さい。
- * 付属している通信ケーブルを本装置と接続するときプラグの固定ネジは絞める必要はありません。また、差し込み時は数ミリしかプラグが入りませんので抜けない様にご注意下さい。

設定ソフトウェアの起動

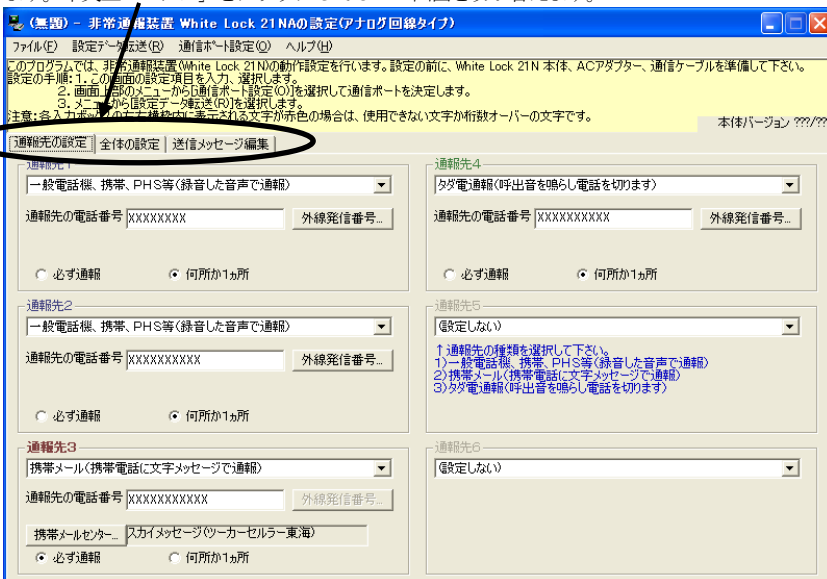
[スタート]メニューから[プログラム(P)]の[WhiteLock21N 設定]を選択して設定ソフトウェアを起動して下さい。

起動すると下記の「設定機種の選択」画面が表示されます。

設定を行う製品のボタンをクリックします。また、誤って設定ソフトウェアを起動した場合は、[設定ソフトを終了]ボタンをクリックして終了して下さい。



「WL21N」の設定画面は、「通報先の設定」、「全体の設定」、「送信メッセージ編集」の3つがあります。中央上の「タブ」をクリックして3つの画面を切り替えます。



画面の各設定項目上にマウスポインタを移動させると、項目毎の説明が表示されます。

- [通報先の電話番号]、[携帯メールセンター] など設定項目が赤い文字で表示されている場合は、必須の入力項目のときか入力に誤りがある場合です。
- 「WL21NA」の設定画面には、「WL21ND」には無い[外線発信番号]の設定があります。その他は「WL21ND」と同じです。
- [通報先の設定] タブで通報先に「携帯メール」が選択されていないければ[送信メッセージ編集] タブを選択できません。

※「WL21N」への転送は何回でも行えますので、最初は練習のつもりで色々と変えて転送してみてください。

通報先の設定

通報先をここで指定します。最大6ヶ所まで指定できます。

通報先毎に「[音声通報](#)」、「[携帯メール通報](#)」、「[タダ電通報](#)」を選択できます。

通報先の種別

- ・ 録音した音声で通報する場合は、「一般電話機・携帯・PHS等…」を選択します。
- ・ 携帯へメッセージで通報するときは「携帯メール…」を選択します。
- ・ 呼出音を鳴らしてすぐ電話を切る場合は、「タダ電通報…」を選択します。
- ・ 通報をしない場合は「(設定しない)」を選択します。

下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。

通報する順番は通報先1、通報先2、…通報先6となります。

全ての通報先を「(設定しない)」にすると、どこにも通報しません。

テレコンのみ使用したい場合は全て「(設定しない)」にしておきます。

※初期状態は全て「(設定しない)」になっています。

※通報先1から順に設定して下さい。

下記の設定では、正常動作しないおそれがありますので、ご注意ください。

- ・ 通報先2以降から設定した場合。
- ・ 通報先1から最後の通報先までの間に「(設定しない)」を入れた場合。

通報先の電話番号

- ・ 通報したい一般回線電話機、携帯電話、PHS の電話番号を入力します。
通報先 1 か所につき最大 24 桁まで入力できます。
- ・ 電話番号に、市外局番が必要な時は必ず入力してください。
※「WL21ND」では必要です。
- ・ 入力の際に、ハイフン（-）は入れないで番号部分のみ入力します。
- ・ PBX 交換機の内線へ通報するときは、内線番号を入力します。（WL21NA）
ダイヤル回線の場合は、' #' や ' * ' は使用できません。（WL21NA）
- ・ 発信者番号を通知する場合は、電話番号の先頭に「186」を入力します。
※通報先が携帯メールの場合「186」は入力しないで下さい。

下図は音声通報の場合です。XX-XXXX-XXXX へ音声通報します。

通報先1

一般電話機、携帯、PHS等(録音した音声で通報)

通報先の電話番号 XXXXXXXXXXXX

外線発信番号...

☐ 必ず通報 ☒ 何所か1ヵ所

下図は通報先に内線番号がある場合です。

XX-XXX-XXXX へダイヤル後 2 秒後に XXXX（内線番号）へ音声通報します。
コンマ（,）1 つにつき 0.5 秒の待ち時間が設定出来ます。

通報先1

一般電話機、携帯、PHS等(録音した音声で通報)

通報先の電話番号 XXXXXXXXX,,,XXXX

外線発信番号...

☐ 必ず通報 ☒ 何所か1ヵ所

下図はタダ電通報の場合です。XXX-XXXX-XXXX へ発信者番号通知でタダ電通報します。

通報先2

タダ電通報(呼出音を鳴らし電話を切ります) ▼

通報先の電話番号 外線発信番号...

☐ 必ず通報 ☒ 何所か1ヵ所

下図は携帯メールの場合です。XXX-XXXX-XXXX へショートメールで送信します。

通報先3

携帯メール(携帯電話に文字メッセージで通報) ▼

通報先の電話番号 外線発信番号...

携帯メールセンター...

☒ 必ず通報 ☐ 何所か1ヵ所

下図は集中監視を設定した場合です。
XX-XXXX-XXXX へ文字メッセージで送信します。

通報先4

携帯メール(携帯電話に文字メッセージで通報) ▼

通報先の電話番号 外線発信番号...

携帯メールセンター...

☐ 必ず通報 ☒ 何所か1ヵ所

通報終了条件

それぞれの通報先は「必ず通報」か「何所か1カ所」を選択できます。

☒ 必ず通報 ☐ 何所か1カ所

「必ず通報」を選択した場合は、他の通報先にかかわらず、通報が成功するまで通報を試みます。

☐ 必ず通報 ☒ 何所か1カ所

「何所か1カ所」を選択した場合は、他の「何所か1カ所」を選択した通報先の何所か1ヶ所にも通報が成功すれば、通報しません。

詳しくは50ページの「複数の通報先を終了する条件」を参照してください。

外線発信番号(WL21NAのみ)

下図は「WL21NA」で0発信してXXXX-XXXXへ音声通報します。

PBX 交換機に接続して外線へ通報するときは、電話番号の先頭に外線発信する番号（ゼロ発信なら0）を入力してコンマ(,)を2つ入力します。コンマ1つは「0.5秒待つ」という指定です。[外線発信番号...]ボタンをクリックすると簡単に入力できます。

0をクリックすると「0, ,」が入力されます。

「なし」をクリックすると「0, ,」や「9, ,」の入力したものが削除されます。

「キャンセル」をクリックすると何も変更せず[外線発信番号]が閉じます。

外線発信番号をダイヤルした後の待ち時間が1秒では足りない場合はコンマを必要なだけ入力してください。

コンマ1つにつき0.5秒づつ待ち時間が長くなります。「0, , ,XXXXXXXX」とすると2秒の待ち時間になります。

※「WL21ND」では外線発信番号の設定は必要ありません。

※通報先が携帯メールの場合は、携帯メールセンターの設定で外線発信番号を指定します。

詳細は次の「携帯メールセンター」を参照下さい。

携帯メールセンター

携帯メールで通報する場合はメールセンターを選択し設定します。

※現在サービスが利用できるのはドコモのショートメールのみとなっております。

設定ソフトにはスカイメール・スカイメッセージが表示されますが、すでにサービスが終了している為ご利用できませんのでご注意ください。

※ドコモの『ショートメール』サービスは2012年3月31日をもって終了します。

2012年4月1日以降はご使用出来ませんのでご注意ください。メール通報が必要な場合は、弊社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。(システムの詳細はホームページでご確認下さい)

※ショートメールセンターによる障害・工事によって使用出来ない場合や、サービス停止や中止した場合の保証は、弊社では承りませんのでご了承下さい。

※契約電話回線がNTT以外の場合、メールセンターに接続出来ない事があります。(Aタイプ)

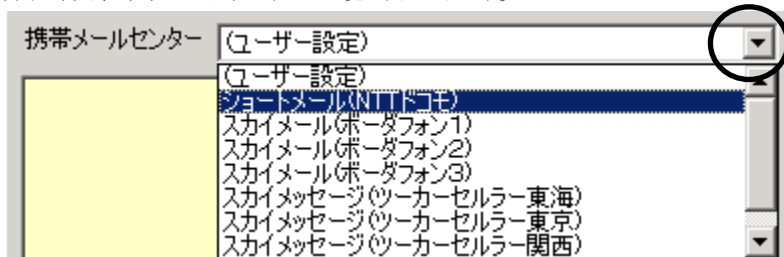
下図のXXX-XXXX-XXXXへ携帯メールで通報する設定で、「(ユーザー設定)」の文字が赤で表示されている場合はメールセンターが未選択の状態です。

ここで、[携帯メールセンター...]ボタンを押します。
携帯メールセンター設定ダイアログが表示されます。

下図は携帯メールセンター設定ダイアログです。

通報先電話番号に携帯電話の電話番号が入力されていれば対応したメールセンターが選択されます。

下図の下矢印（▼）をクリックすると一覧が表示されます。

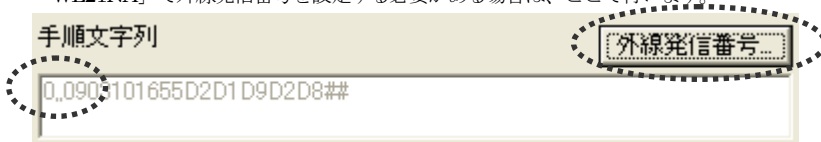


※スカイメール・スカイメッセージはご使用できません。

※ショートメールは2012年3月31日をもってサービスが終了します。2012年4月1日以降は使用出来ませんのでご注意ください。メール通報が必要な場合は、弊社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。(システムの詳細はホームページでご確認下さい)

- WL21NA の場合・・・「ショートメール(NTT ドコモ)」を選択して下さい。
- WL21ND の場合・・・「ショートメール(NTT ドコモから NTT ドコモ)」を選択して下さい。

「WL21NA」で外線発信番号を設定する必要がある場合は、ここで行います。



0 発信させる場合は、「外線発信番号」をクリックして「0」をクリックします。すると、手順文字列の先頭に「0,」が挿入されます。

メールセンターが設定できたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

注意点

携帯メール通報の場合、通報先の携帯電話が圏外の場合は通報が遅れることがあります。また、正常に通報出来ない場合は「Q&A 携帯メールについてのご質問」77ページをご覧ください。

※設定後は必ずテスト通報を行って下さい。ショートメール受信が出来ない電話機に対する文字メッセージ通報によって発生した多額の電話代請求について、弊社は一切その責任をおいかねますので予めご了承下さい。

WhiteLock 集中監視専用モデムへ通報する場合

「通報先の電話番号」にモデムが接続されている回線の電話番号を入力してください。
「携帯メールセンター」は「WhiteLock 集中監視」を選択してください。

全体の設定

全体の設定は2つ目のタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

通帳先の設定 | **全体の設定** | 送信メッセージ編集

☐ 電源ON時に60秒間入力信号を無視する

☐ 停電や復電時に通報する

解除呼出の方法

☐ 全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います

☐ 各入力信号が解除する度に解除呼出を行います

☒ 解除呼出を行わない

電話回線の種類

☒ 自動判定

☐ プッシュ回線

☐ ダイヤル回線

入力信号の検点仕様

☐ 入力信号1

☐ 入力信号2

☐ 入力信号3

☐ 入力信号4

☐ 入力信号5

☐ 入力信号6

☐ 入力信号7

☐ 入力信号8

入力信号のチャタリング時間(秒)

入力1 ms

入力2 ms

入力3 ms

入力4 ms

入力5 ms

入力6 ms

入力7 ms

入力8 ms

テレコン

パスワード

出力信号をONにする為の
コマンドを数字4桁で設
定します

出力1 ON 出力1 OFF

出力2 ON 出力2 OFF

出力3 ON 出力3 OFF

出力4 ON 出力4 OFF

入力信号の確認とテレコンコ
マンドの為のパスワードを数字4桁で
設定します

出力信号をOFFにする為の
コマンドを数字4桁で設
定します

パルス信号を出力する為の
コマンドを数字4桁で設定します
(300msリ秒間ONにします)

パルス出力1

パルス出力2

パルス出力3

パルス出力4

入力信号がこの
時間の間、継
続してON(OFF
F)の時に入力
変化があったと
みなします

電源 ON 時に 60 秒間、入力信号を無視する

□内にチェックを付けると、電源スイッチを入れたときに 60 秒間 LP1 が低速点滅します。この間、入力信号が ON/OFF して通報しません。着信もしません。

※「検知センサーCM-02」を使用される場合はチェックを入れてください。

☐ 電源ON時に60秒間入力信号を無視する

停電や復電時に通報する

□内をクリックする毎にチェックが付いたり消えたりします。チェックを付けると停電や復電時に通報するようになります。

詳細説明は49ページの「停電時発信」をお読みください。

☐ 停電や復電時に通報する

電話回線の種類

電話回線の種類

- ☒ 自動判定
- ☐ プッシュ回線
- ☐ ダイヤル回線

WL21NA の場合、接続する回線の種類を設定します。通常は「自動判定」にしておきます。本体の電源を入れたときに回線の種類を自動で判定します。PBX によっては自動判定できない回線もありますので、その場合は回線にあった設定を選んでください。

解除呼出の方法

入力信号が解除されたとき（機器の故障やセンサーの信号が「なし」の状態になったとき）に通報する方法を、ここで選択します。

呼出方法についての詳細説明は44ページの「呼出の種類と通話料金」をお読みください。

解除呼出の方法

- ☐ 全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います
- ☐ 各入力信号が解除する度に解除呼出を行います
- ☒ 解除呼出を行わない

※「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」は通報先がすべて携帯メールの場合のみ選択できます。1ヶ所でも音声通報かタダ電通報があれば選択できません。

※「全ての入力信号が解除」の状態は、入力信号の接点仕様（29ページ参照）に準じます。

入力信号の接点仕様

各入力のア点、b接点を変更します。

□内チェックでb接点仕様です。

入力信号の接点仕様

- ☐ 入力信号1
- ☐ 入力信号2
- ☐ 入力信号3
- ☐ 入力信号4
- ☐ 入力信号5
- ☒ 入力信号6
- ☒ 入力信号7
- ☐ 入力信号8

チェックを入れる
と外部入力
がOFFのときに入
力ありと判断し
ます

チェックしない

a 接点 

b 接点 

チェックする

a 接点 

b 接点 

制御装置やセンサーの出力信号は「通報有り」としたいとき、接点が短絡するものや、解放になるものがあります。通常は「通報有り」のとき短絡信号を出力する場合がありますが、制御装置などでは様々です。

◎「通報有り」のとき、短絡信号を出力の場合は□内のチェックはしません。

◎「通報有り」のとき、解放になる場合は□内にチェックを付けます。

※チェックを付けた場合、短絡された状態が通報しない時となります。設定後にテストされるときはご注意ください。

※本体の外部信号入力ランプは、外部信号が短絡したときに点灯します。ここでの設定には無関係です。

入力信号のチャタリング時間（ミリ秒）

各入力信号がこの時間の間、継続して ON（OFF）の時に入力変化があったとみなします。
100 ミリ秒単位で 0 ミリ秒～1310700 ミリ秒（約 21 分）まで設定できます。

入力信号のチャタリング時間(ミリ秒)

入力1	700	ms
入力2	700	ms
入力3	700	ms
入力4	1000	ms
入力5	1000	ms
入力6	60000	ms
入力7	60000	ms
入力8	700	ms

入力信号がこの時間の間、継続して ON(OFF)の時に入力変化があったとみなします

※初期値は 700 ミリ秒です。

※1 秒は 1000 ミリ秒・1 分は 60000 ミリ秒

※入力ランプが点灯（又は消灯）したと同時に判定時間をカウントし始めます。

テレコン

テレコンを使用するにはここにチェックを付けます。

☒ **テレコン**

パスワード 入力信号の確認とテレコンコマンドの為にパスワードを数字4桁で設定します

出力信号をONにする為のコマンドを数字4桁で設定します

出力信号をOFFにする為のコマンドを数字4桁で設定します

出力1 ON	0001	出力1 OFF	0005
出力2 ON	0002	出力2 OFF	0006
出力3 ON	0003	出力3 OFF	0007
出力4 ON	0004	出力4 OFF	0008

パルス信号を出力する為のコマンドを4桁で設定します

パルス出力1	0009
パルス出力2	0010
パルス出力3	0011
パルス出力4	0012

◎チェックを外すと本装置に電話をかけても着信しません。テレコンを使用しない場合はチェックを外してください。

◎パスワードの欄には認証に必要なパスワードを 0～9 の数字 4 桁で指定します。

◎出力信号を ON、OFF にする為の出力コマンドを 0～9 の数字 4 桁で指定します。全てのコマンドはそれぞれ違う 4 桁の数字を指定します。

◎パルス出力とはコマンドを入力したら出力を ON にし、1 秒後 OFF にします。制御機器によってはパルス信号で ON、OFF するものがあるので、その場合に使用します。

※同じコマンドがあるとエラーとなります。

※使用しない出力信号でもコマンドは設定してください。

※テレコンについての詳細説明は53ページの「テレコン」をお読みください。

送信メッセージの編集

送信メッセージの編集は3つ目のタブをクリックすると表示される下図の画面で行います。

文字の種類

※スカイメール・スカイメッセージはご使用出来ません。

※ショートメールは2012年3月31日をもってサービスが終了します。2012年4月1日以降は使用出来ませんのでご注意下さい。メール通報が必要な場合は、弊社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。(システムの詳細はホームページでご確認下さい)

携帯メールで送信できる文字の種類には「数字モード」、「フリーメッセージ」、「拡張フリーメッセージ」、「定型分」、「区点コード」の5種類あります。「WL21N」はこのうち、「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」で文字を送ることができます。「文字コード」91ページを参照してください。

- ・ショートメール(半角全角 50 文字)
送信できる最大文字数は、半角全角にかかわらず 50 文字です。
「フリーメッセージ」と「区点コード」が使用できます。
- ・集中監視システム
送信できる文字数は半角で 21 文字で、大文字の英字、カタカナ、数字、一部の記号が使えます。
※全角文字・小さいカタカナ「アィエヤヨツ」は使えません。
※使用できない文字を入力すると使用できる文字に変換されます。

識別コード

識別コードは、複数の通報装置から通報を受信したとき、相手を特定するために使用する文字です。

識別コード	施設 1
-------	------

送信されるメッセージは「識別コード」＋「）」＋「入力信号のメッセージ」となります。
 (識別コードの後ろに半角文字のカッコが付きます)
 必要なければ識別コードを設定する必要はありません。そのときは「）」も付きません。
 「入力信号のメッセージ」だけが送信されます。

入力信号 1～8

各入力に該当する信号が「有り」になったとき、ここで設定するメッセージが携帯メールで送信されます。

入力信号 1	入力信号 1
--------	--------

「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合、信号が「有り」になったとき“ON”が、信号が「無し」になったとき“OFF”がこのメッセージの後ろに付きます。このときの最大文字数は4文字少なくなります。

※電池電圧低下通報を設定している場合（電池電圧低下通報の詳細は60ページを参照下さい）
 入力信号8に「電池電圧低下」の通報メッセージを入力してください。

全解除

「全体の設定」タブの「解除呼出の方法」で「全ての入力信号が解除になると解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

全解除	全ての警報は解除しました
-----	--------------

停電・復電

「全体の設定」タブで「停電や復電時に通報する」にチェックを付けていた場合に送信されるメッセージです。

停電	停電しました
復電	復電しました

文字数

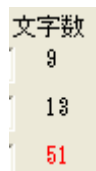
メッセージを入力すると現在の文字数が表示されます。

「文字の種類」で「ショートメール」を選択してれば、全角1文字、半角1文字として数えた数が表示されます。それ以外の「文字の種類」の場合は、全角2文字、半角1文字として数えた数が表示されます。

「識別コード」が設定されていればその分の文字数も数えられます。

数字が赤く表示された場合は文字数がオーバーしている状態です。

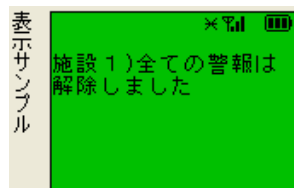
「各入力信号が解除する度に解除呼出を行います」にチェックを付けていた場合、メッセージの後ろに“ON”または“OFF”が付くため、最大文字数は通常の文字数より4文字少なくなります。



表示サンプル

それぞれのメッセージを入力するとき、カーソルが表示されているメッセージが携帯電話でどのように見えるかをあらわしたものです。

使用できない文字があればここに赤い文字で表示されます。



テスト文字列設定

テスト文字列設定

このボタンをクリックすると未入力のメッセージに適当なメッセージを設定します。

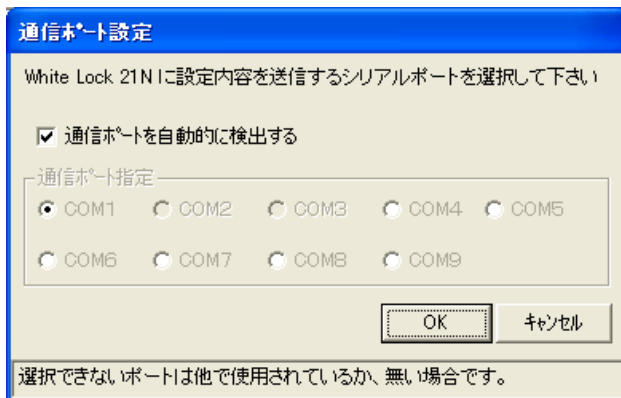
動作チェックをするときに簡単にメッセージを設定できます。

文字の種類で全角文字が使える場合と使えない場合で設定されるメッセージは違います。

	全角文字が使える	全角文字は使えない
識別コード	テスト	テスト
入力信号1	入力信号1	ニュリョク1
入力信号2	入力信号2	ニュリョク2
入力信号3	入力信号3	ニュリョク3
入力信号4	入力信号4	ニュリョク4
入力信号5	入力信号5	ニュリョク5
入力信号6	入力信号6	ニュリョク6
入力信号7	入力信号7	ニュリョク7
入力信号8	入力信号8	ニュリョク8
全解除	全解除	ALL OFF
停電	停電	テイデン
復電	復電	フクデン

通信ポートの確認

設定内容を転送する時に使用する通信ポートを選択します。
メニューから「通信ポート設定 (Q)」をクリックして、下記ウィンドウを開きます。



通信ポートを自動的に検出する

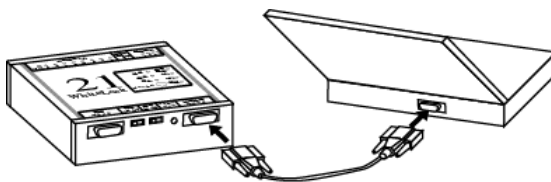
「WL21N」に接続されている通信ポートを探して転送を行います。
通常はここにチェックを付けておいてください。

通信ポート指定

「通信ポートを自動的に検出する」で転送が失敗する場合、チェックを外して「WL21N」が接続されている通信ポートを選択してください。
使用出来ない通信ポートがあれば薄色で表示されて選択できない状態になります。転送に使用する通信ポートをマウスで選択したら、[OK]ボタンをクリックします。

本体とパソコンの接続

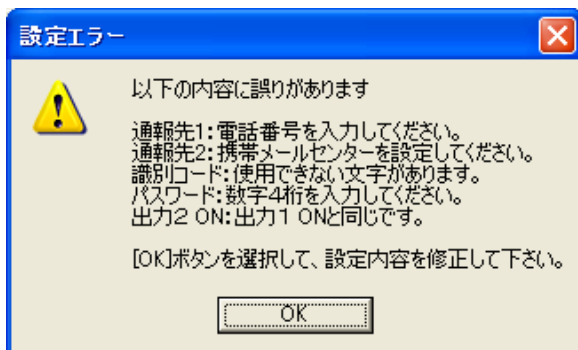
本体とパソコンを付属の「通信ケーブル」で接続します。
本体側は「初期設定設定コネクタ」、パソコン側は「[O|O]」のマークがあるコネクタに接続します。



設定内容の転送

設定画面で入力が完了したら、メニューから「設定データ転送(R)」を選択して下さい。

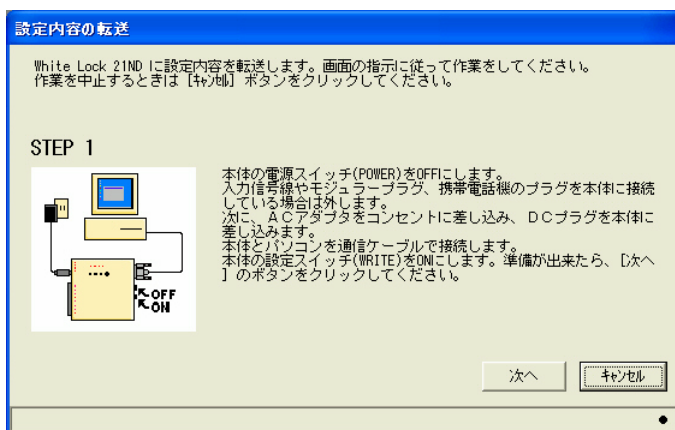
設定画面で、入力エラーがあったときは下図のようなメッセージが表示され、設定画面上の誤りが見つかった部分にカーソルが移動します。



[OK] ボタンをクリックして、誤りが見つかった所を修正してから再度「設定データ転送(R)」を選択して下さい。

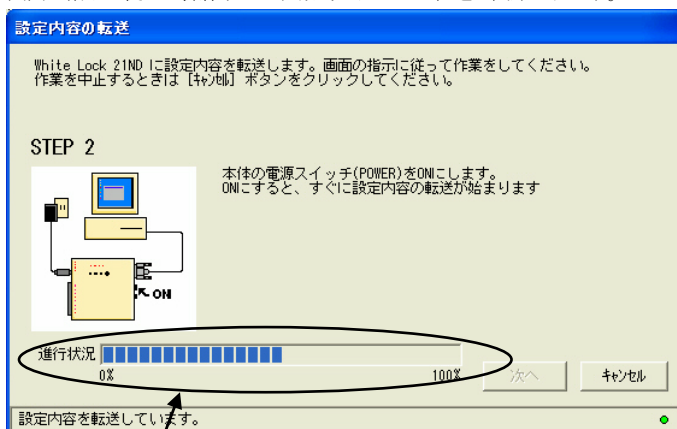
「設定内容の転送」画面では、製品本体に設定画面で入力された設定内容の転送作業を行います。画面に表示される説明に従ってスイッチの操作や通信ケーブルの接続を行います。

※必ず AC アダプタから電源供給をしながら転送して下さい。



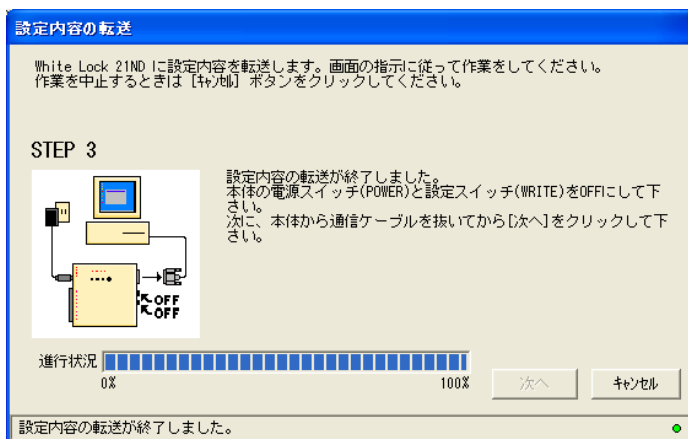
「次へ」のボタンをクリックします。

画面の指示に従って操作すると自動的にデータの転送が開始されます。



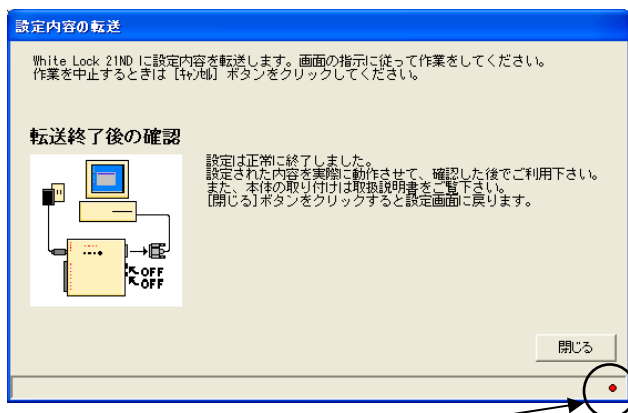
転送が始まると進行状況が表示されます。電源スイッチを ON にしても表示されない場合は、転送がうまくいかない状態です。うまく転送出来ない場合は、Q&A の85ページを参照下さい。
※進行状況が 100%になるまでは、電源スイッチを切ったり、通信ケーブルを抜いたりしないで下さい。

しばらくして、転送が終わると下図のようになります。



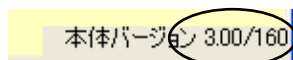
転送が終了し、通信ケーブルのコネクタを抜くと「次へ」のボタンが使えるようになります。
「次へ」ボタンをクリックします。

最後に確認画面が表示されます。



通信ケーブルを本体から外すと緑から赤へ変わります。

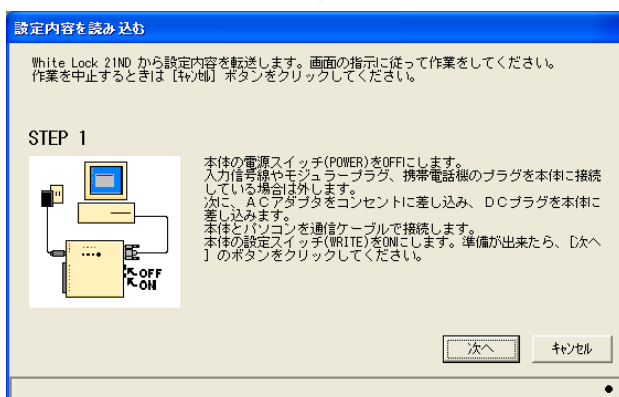
「閉じる」をクリックすると転送作業が終了し、元の画面に戻ります。



設定内容を転送したときや本体から設定内容を読み込んだときには、設定画面に、本体のバージョンが表示されます。

本体から設定内容を読み込む

本体に現在保存されている設定を読み込みます。本体が、どのような設定になっているか確認することができます。「ファイル(F)」メニューの「本体から設定を読み込む(R)...」を選択してください。転送を開始する画面が表示されます。



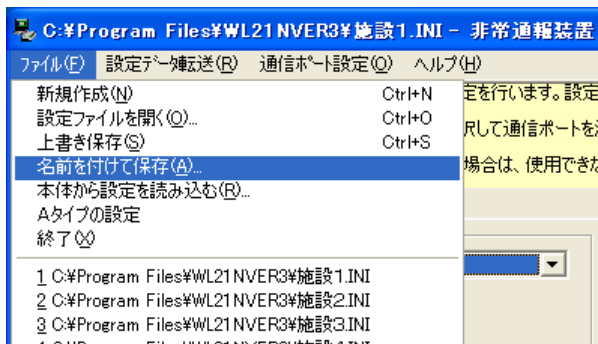
後は、画面の指示に従って操作をして下さい。

手順は「設定内容の転送」と同じです。転送終了後、本体から読み込んだ設定が画面に表示されます。

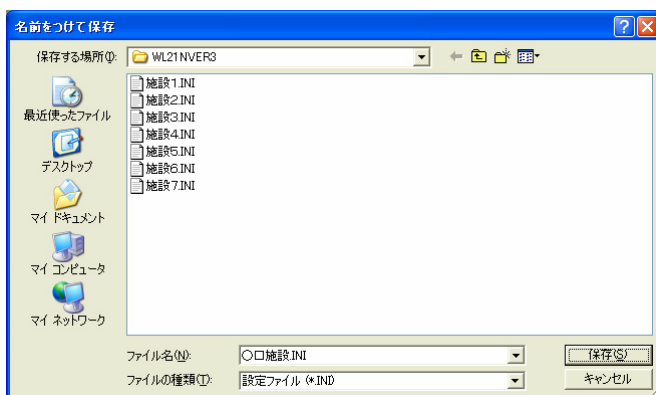
※「送信メッセージ編集」タブの「文字の種類」の設定は本体に保存されていないため、読み込むことはできません。読み込んだ後で適当な値に設定してください。

設定内容の保存と読み込み

設定内容をファイルに保存したり、ファイルから読み込んだりするにはメニューの「ファイル(F)」から行います。



設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。保存先のフォルダ、ファイル名を指定して[保存(S)] ボタンをクリックします。保存する設定ファイルは、INI の拡張子を持つファイルとなります。



新規作成

全ての設定項目を初期状態にします。通報先は全て「(設定しない)」で送信メッセージも全て未設定にします。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせてみます。

設定ファイルを開く

保存した設定ファイルを開く場合は、[ファイル(F)] メニューの [設定ファイルを開く(O)] を選択し、開きたい設定ファイルを選択して[開く(O)]ボタンをクリックします。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせてみます。

上書き保存

既に開かれているファイルに上書き保存する場合は、[ファイル(F)] メニューの [上書き保存(S)] を選択します。

名前を付けて保存

設定された内容をファイルに保存する時は、[ファイル(F)] メニューの [名前をつけて保存(A)] を選択します。

本体から設定を読み込む

37ページを参照してください。

A タイプの設定・D タイプの設定

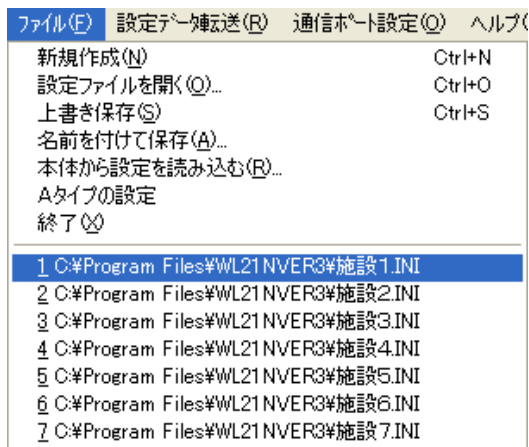
A タイプの設定中のなら D タイプの設定画面に、D タイプの設定中なら A タイプの設定画面にする。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

終了

設定ソフトを終了します。

以前に編集したファイル

過去に開いたファイルの履歴を 10 個まで表示します。表示されているファイルを選択すると、そのファイルを開きます。現在の設定が保存してなければ保存するか問い合わせます。

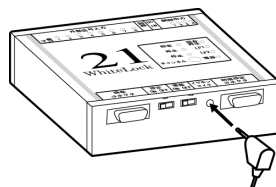


録音再生

音声通報を使用する場合は、チャンネル0～9・A～Bを録音してください。
テレコンを使用する場合は、チャンネルC～Fを録音してください。

録音再生の概要

音声録音は16の録音チャンネルが用意されています。
各チャンネルを録音し、通報時はこれらを組み合わせて再生されます。
各チャンネルの録音時間は最大10秒となります。
本体側面にイヤホンマイクを挿してください。



録音する内容

- | | |
|------------|---|
| 録音チャンネル0 | 設置した場所や機械装置などの名前が解るような内容を録音します。
例：「こちらは××です」、「◎◎からのお知らせです」 |
| 録音チャンネル1～8 | 各入力信号1～8に対応した通報内容を録音します。
例：「〇〇の警報が発生しました」、「〇〇の故障が発生しました」、「〇〇がオンになりました」、「〇〇の窓から侵入者がありました」 |
| 録音チャンネル9 | 全入力が解除したときに通報する内容を録音します。
例：「全ての警報は解除しました」、「全ての故障は解除しました」、「全ての信号はオフになりました」 |
| 録音チャンネルA | 停電が発生した際に通報する内容を録音します。
例：「停電が発生しました」、「外部電源装置が故障しました」 |
| 録音チャンネルB | 復電したときに通報する内容を録音します。
例：「復電しました」、「外部電源装置が復帰しました」 |
| 録音チャンネルC | パスワード入力を促す内容を録音します。
例：「パスワードを入力し、最後に#を押してください」 |
| 録音チャンネルD | パスワードが一致しなかった時の内容を録音します。このメッセージの後にチャンネルCかチャンネルEのメッセージが流れます。
例：「一致しません。もう一度」 |
| 録音チャンネルE | コマンド入力を促す内容を録音します。
例：「コマンドを入力し、最後に#を押してください」 |
| 録音チャンネルF | コマンドを受け付けた内容を録音します。
例：「受け付けました」 |

通報例（通常通報のとき）

入力信号が「有り」になったとき

- 「こちらは××です。〇〇の警報が発生しました」
- 「こちらは××です。〇〇の故障が発生しました」
- 「こちらは××です。〇〇がオンになりました。」
- 「こちらは××です。〇〇の窓から侵入者がありました」

全入力が「無し」になったとき

- 「こちらは××です。全ての警報は解除しました」
- 「こちらは××です。全ての故障は解除しました」
- 「こちらは××です。全ての信号はオフになりました」

停電が発生したとき

- 「こちらは××です。停電が発生しました」
- 「こちらは××です。外部電源装置が故障しました」

復電したとき

- 「こちらは××です。復電しました」
- 「こちらは××です。外部電源装置が復帰しました」

録音再生の操作方法

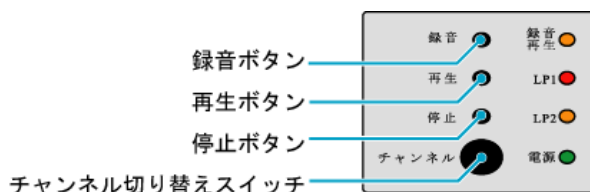
録音は、付属のイヤホンマイクで行います。

※録音再生をするときは、必ず AC アダプタを接続して下さい。イヤホンマイクと AC アダプタ以外は繋げないで下さい。

録音再生モードへの切り替えは、「設定スイッチ」を ON にしてから「電源スイッチ」を ON にします。既に電源スイッチが ON のときは一度 OFF にして、設定スイッチを ON にしてから電源スイッチを ON にします。

録音再生をするとき、内蔵電池に十分充電されていれば、電源プラグを抜いていても可能です。

1. 最初に録音するチャンネルを「チャンネル切り替えスイッチ」で選択します。
2. 次に録音ボタンと停止ボタンを同時に押します。
録音状態になると、録音再生ランプと LP2 が点灯します。
3. イヤホンマイクに録音する内容をお話してください。
録音再生ランプと LP2 が点灯してから 10 秒が経過すると自動的にランプが消えて録音が終了します。
※任意の位置までで、録音を停止させたいときは停止ボタンを押します。
4. 録音が終わったら再生ボタンを押します。イヤホンから再生されます。
途中で録音を停止させた場合はその位置まで再生されます。



*** 録音再生が終了したら、必ず「チャンネル切り替えスイッチ」を 0 にして下さい。**

慣れてくれば無音の状態が少なくなるように録音できるようになります。音量調整ボリュームはありませんので、録音する音量で調整してください。各チャンネルの説明を読んで適当な内容を録音再生して確認してください。

注意事項

「WL21ND」で再生を行うときは、携帯ケーブルを MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)から取り外してください。

取り外さずに再生した場合は、再生音量が小さくなったりひずんで聞こえたりします。音声通報を携帯電話で受けた場合、電波の状況によっては音質が悪いことがあります。

録音するときに大きな声で録音したときは再生音がひずむ場合がありますが、通報された電話機で聞くときはひずむことはありません。

音量の調整は出来ませんので実際に通報を受けてご確認ください。

設定スイッチを ON にしてから電源スイッチを ON にしたときのクリック音について

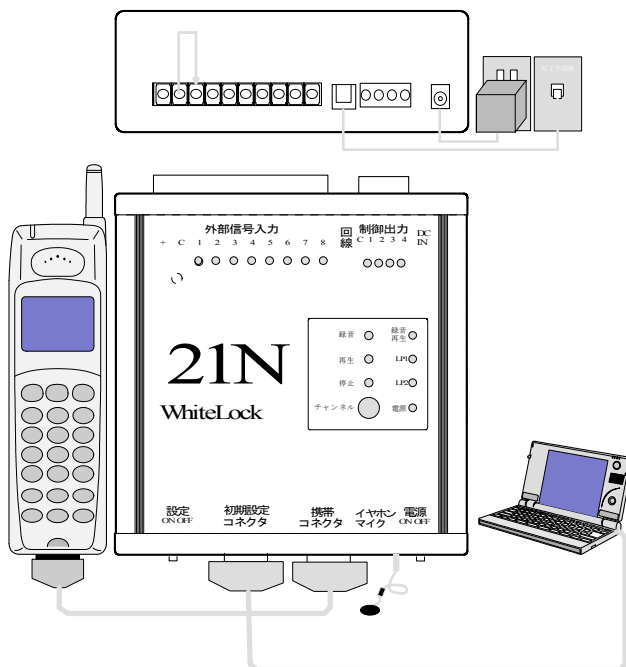
音声録音再生やパソコンによる設定を行う際に電源スイッチを ON にしたとき、クリック音や短いトーンが聞こえることがありますが、異常ではありません。

動作確認

本体の設定が終了したら、設定したように動作するか必ず確認して下さい。

1. 「電源スイッチ」を OFF にします。
2. AC アダプタを電源コンセントに差し込み、AC アダプタから出ている電源プラグを本体の「DC IN」に接続します。接続方法は「AC アダプタの接続」61ページの説明をご覧ください。
3. 製品が「WL21NA」の場合は、付属のモジュラーケーブルで電話回線と本体の「回線」を接続します。接続はカチッと音がして完全に差し込まれていることを確認してください。
4. 製品が「WL21ND」の場合は、本体から伸びている携帯プラグを MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)に差し込みます。接続方法は「MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の接続」68ページの説明をご覧ください。
5. 「チャンネル切替スイッチ」が 0 になっていることを確認します。
6. 「設定スイッチ」が OFF になっていることを確認してから、「電源スイッチ」を ON にします。
「設定スイッチ」が ON になっていたら OFF にしてから「電源スイッチ」を ON にします。
7. 各入力信号の端子と、共通端子をリード線で結線させ通報させます。
○音声通報・・・通報先に電話がかかって音声流れるか確認します。
○携帯メール・・・通報先の携帯電話にメールが届いたか確認します。
○タダ電通報・・・通報先で呼出音が鳴って切れるか確認してください。

全体接続イメージ



呼出の種類と通話料金

通報の種類

通報には「音声通報」と「携帯メール通報」と「タダ電通報」の3種類があります。

音声通報

音声通報は、一般電話、携帯電話、PHS 等へお客様がご自分で録音した音声で通報します。

携帯メール

携帯メールは、設定ソフトで設定した文字メッセージをドコモのショートメールを利用してメール通報します。

※通報先はドコモの MOVA・FOMA 携帯電話機に限ります。

※『ショートメール』サービスは2012年3月31日をもって終了します。

2012年4月1日以降はご使用出来ませんのでご注意ください。メール通報が必要な場合は、弊社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。（システムの詳細はホームページでご確認下さい）

タダ電通報

タダ電通報は、一般電話、携帯電話、PHS の呼出音を鳴らして電話を切ります。呼出音を鳴らすだけなので通話料金はかかりません。

使い方としては、通報先が着信履歴を確認後、テレコンを使って状態を確認します。

通報先が電話に出た場合でも「WL21N」はすぐ電話を切ります。この場合通話料金がかかってしまいます。電話機によっては、呼出音を鳴らさずに電話を取る場合があります。たとえば、留守番電話サービスやドライブモードなどです。その場合も料金が掛ってしまいますのでご注意ください。

※ドライブモードの場合、リダイヤルし続ける為に多額の電話代請求が発生しますので、ご注意ください。また、通報先では携帯電話機の機種によっては沢山の着信履歴がたまってしまう。

WhiteLock 集中監視システムへの通報

WhiteLock 集中監視システムへの通報は、弊社製品のトーンモデムへ文字メッセージで通報を行います。

トーンモデムをパソコンに接続し通報を集中監視することができます。

通報の手順

ここでは、「WL21N」がどのように仕事をしているか、手順を説明します。

- 入力信号 ON
- 受話器を取る
- 「LP1（黄色）」点灯
- ダイヤルを開始する
- 相手のベルが鳴るまで待つ
 - △制限時間になった（待ったけどベルが鳴らない）
 - 「LP1（黄色）」、「LP2（赤色）」を3秒間高速点滅 → <リダイヤル>へ
 - △話し中 →「LP1（黄色）」 3秒間高速点滅 → <リダイヤル>へ
- 相手のベルが鳴った。（ここからは、設定された通報先により異なります）

<携帯メールの場合>

- 「メッセージを送る相手の電話番号を入力して下さい。」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
- 通報先の電話番号を送信する
- 「こちらはNTTドコモショートメッセージセンターです。プッシュボタンでメッセージを入力し最後に#を2回押して下さい。」のアナウンスを待つ（10秒）
- メッセージを送る
- 「メッセージを送ります。ご利用ありがとうございました。」のアナウンスが始まるまで待つ（15秒）
- 受話器を下ろす
- 下記の情報が得られるまで待つ（制限時間最大120秒）
 - △通話が正常に完了した
 - 「LP1（黄色）」消灯→LP2（赤色）」高速点滅6秒間→<通報終了確認>へ
 - △制限時間オーバー（通話ができなかった）
 - 「LP2（赤色）」高速点滅3秒間→<リダイヤル>へ

<音声通報の場合>

- 最大30秒間相手が電話に出るまでベルを鳴らし続ける
- 相手が電話を取り、内容を聞いてから受話器を下ろしたか調べる
 - △相手が電話を切った
 - 「LP1（黄色）」消灯→「LP2（赤色）」高速点滅6秒間→<通報終了確認>へ
 - △制限時間オーバー（最大通話時間になった）
 - ベルを鳴らし始めてから30秒経過するか、相手が受話器を上げても120秒以内に受話器を下ろさないと電話を切る
 - <リダイヤル> へ。

<タダ電通報の場合>

- 電話を切ります。

＜リダイヤル＞

- 受話器を下ろす
- 「LP1（黄色）」消灯
- 「LP1（黄色）」低速点滅しながらリダイヤルまで待つ（10秒）
- 通報未完了が2ヵ所以上の場合は、次の通報先の電話番号をセットして＜受話器を取る＞へ
通報未完了が1ヵ所の場合は、通報先はそのまま＜受話器を取る＞へ

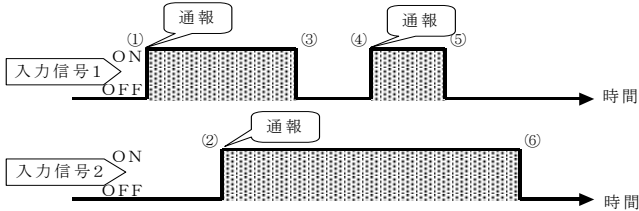
＜通報終了確認＞

- 通報終了条件(詳細説明は50ページ)により、通報を完了していない通報先がある場合は、その通報先の電話番号をセットして＜ダイヤルを開始する＞へ
- 通報をする通報先がない場合は、通報終了

標準設定の時

入力信号が「有り」になったときに通報を行います。

携帯メールの場合は、メッセージの後へ「ON」や「OFF」が付加されません。



1. 入力信号1「有り」…通報する
2. 入力信号2「有り」…通報する
3. 入力信号1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4. 入力信号1「有り」…通報する
5. 入力信号1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6. 入力信号2「無し」…通報しない（全解除呼出の設定がしていないとき）

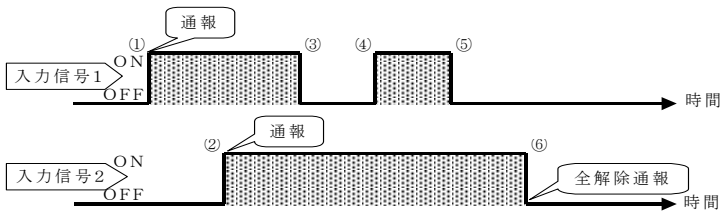
全解除呼出設定

全ての入力信号が「無し」になったときに解除通報を行います。

既に通報済みの入力、他の入力が「有り」のときには無視され、変化しても通報しません。全入力が「無し」になった後に「有り」になると通報します。

この機能は、「個別解除呼出」を選択している場合は設定できません。

携帯メールの場合は、メッセージの後へ「ON」や「OFF」が付加されません。



1. 入力信号1「有り」…通報する
2. 入力信号2「有り」…通報する
3. 入力信号1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
4. 入力信号1「有り」…通報しない（既に通報済みであり、入力2が「有り」であるため）
5. 入力信号1「無し」…通報しない（個別解除呼出の設定がしていないとき）
6. 入力信号2「無し」…通報する（全解除呼出の設定がしてあるから）

個別解除呼出

各入力信号が「無し」になると解除呼出を行います。

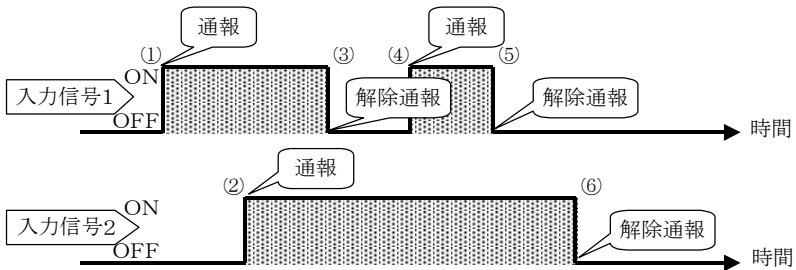
携帯メールのメッセージの後へそれぞれ「ON」や「OFF」が自動的に付加されます。

この機能は、「全解除呼出設定」を選択している場合は設定できません。

すべての通報先が携帯メールの場合のみ設定できます。

この設定をすることで、センサーなどの信号出力が誤報検知を出したとき、すぐに復旧すれば解除呼出によって誤報の確認が出来ることもあります。

個別解除呼出に設定すると、入力変化の度に通報しますから通報頻度が高い場合は通話料が多くなります。入力信号が頻繁に変わるところで設定する場合は注意が必要です。



1. 入力信号1「有り」…通報する
2. 入力信号2「有り」…通報する
3. 入力信号1「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
4. 入力信号1「有り」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
5. 入力信号1「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）
6. 入力信号2「無し」…通報する（個別解除呼出の設定がしてあるから）

停電時発信

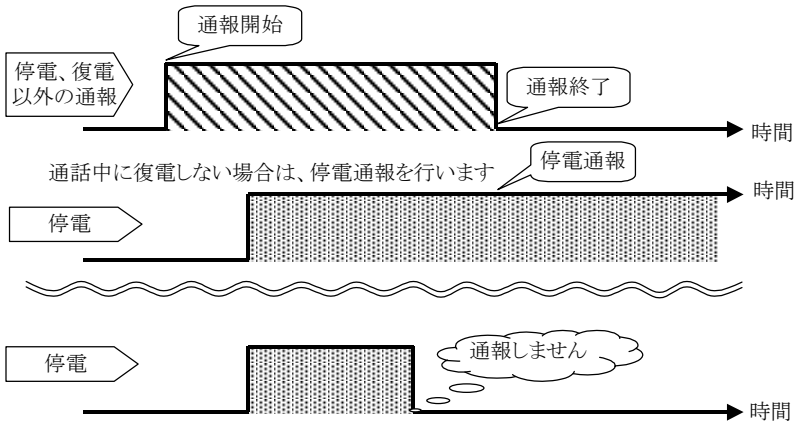
停電や復電があったときに通報します。

「停電や復電時に通報する」を選択した場合は、停電時、復電時ともに通報します。

携帯メールに通報するときは、停電時のメッセージ、復電時のメッセージとなります。

停電通報は「全解除呼出」や「個別解除呼出」とは関係なく、別の呼出として通報します。

停電中に停電保証充電池がされた場合、本体は停止するので停電通報は行いません。その後、復電しても復電通報は行いません。



電池電圧低下通報

内蔵の充電電池の電圧が8.4Vまで下がったら通報します。(設定方法は60ページを参照)。

※入力接点8を電池電圧低下通報にするか、通常の入力信号として使うか設定できます。

※音声メッセージはチャンネル8に、文字メッセージは入力8に「電池電圧低下」のメッセージを設定します。

1回の通報にかかる通話時間

- 「携帯メール」、「トーンモデム」へで通報するときは、文字数により通話時間が変わります。全角1文字送信するのに2秒、半角1文字送信するのに1秒かかります。10文字の全角文字メッセージを送信する場合は、メールセンターへ電話をかけたり、切ったりする時間を含めて40秒程度です。
- 音声通報の場合は、受信側が受話器を上げている時間によって異なります。但し、通報1回当たり最大120秒を過ぎると自動的に電話を切ります。
※この場合、通報が正常に終わっていないものと判断し、リダイヤルします。
- タダ電通報の場合は、呼出音を鳴らすだけなので通話料はかかりません。

通報終了の条件

1つの通報先を終了する条件

それぞれの通報先で通報が終了したと判定される条件。

- 音声通報の場合、通報先が電話に出て 120 秒以内に電話を切ると、その通報先への通報は終了となります。（WL21N は 30 秒以内に電話に出ないとき、一旦電話を切ってかけ直す動作をします。）
- タダ電通報の場合、本装置が呼出音を確認できたら、その通報先への通報は終了となります。通報先の呼出音が鳴る回数は不定です。
- 携帯メールの場合、ショートメールセンターが電話に出て文字メッセージを預かった後、電話が切れればその通報先への通報は終了となります。
- 通報先が話中や、通報先の携帯電話が圏外か電源が切ってあった場合、再度電話をかけます。
- WL21NA で音声通報の場合、通報を受けた電話機で＃を押すと通報終了となります。PBX で電話を切ったあとの話中音の周波数が違う場合でも、＃を押すことで通報終了とさせることができます。

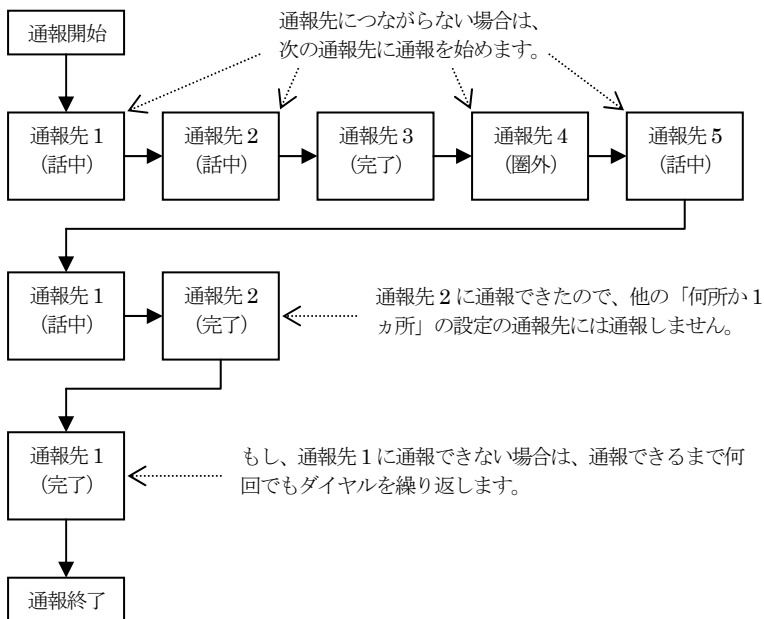
複数の通報先を終了する条件

- 通報する順番は通報先1～6の順番に行います。
- 全ての通報が終了するまで通報先1～6を繰り返し行います。
- 通報が終了した通報先には通報しません。順番を飛ばします。
- 通報先が話中、圏外などで正常に通報が出来なかった場合は、次の通報先へダイヤルします。
- 複数の通報先を設定した場合、「必ず通報」か「何所か1カ所」の設定により終了条件が変わります。
- 「必ず通報」の設定をした通報先は、他の通報先とは関係なく成功するまで行います。
- 通報先が1つだけの設定のときは、「何所か1カ所」、「必ず通報」の設定は無視され、必ず通報します。
- 6カ所とも「必ず通報」に設定した場合、6カ所すべてが正常に通報するまで繰り返します。
6カ所とも「何所か1カ所」に設定した場合、6カ所のうち何所か1カ所でも正常に通報出来ると、残りの5カ所には通報しません。
- 複数の通報先の中に、「何所か1カ所」に設定した通報先が1つだけのとき、「何所か1カ所」の設定は無視されて必ず通報します。「何所か1カ所」の設定を有効にする為には、「何所か1カ所」に設定する通報先が複数必要となります。「何所か1カ所」に設定した通報先が2つあるときは、2つのうちどちらか1ヶ所に通報します。

例：通報先を5カ所に設定したとき

通報先の受信装置の種類

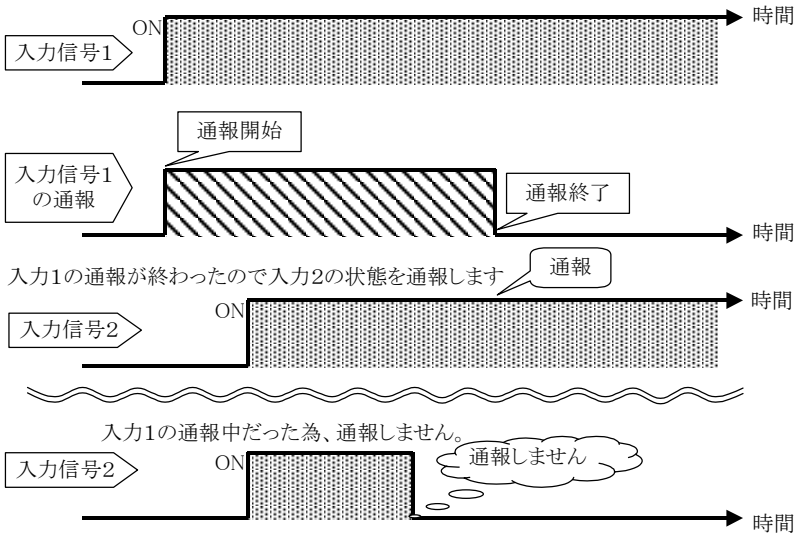
通報先 1：電話機	必ず通報
通報先 2：電話機	何所か1カ所
通報先 3：携帯メール	必ず通報
通報先 4：携帯電話機	何所か1カ所
通報先 5：電話機	何所か1カ所



通報を終了するまでに発生したイベント

通報中に新たに発生したイベント(通報を行う条件が整った状態)は、現在の通報が設定通りに終了しない限り通報を開始しません。

例：入力信号1が「有り」になった時の動作例



注意事項

- WL21ND の場合、通報先の電話番号に 0120 など通話料金のかからない通報先を設定すると正常に通報が終了しません。

テレコン

入力信号の状態を確認するとき

本装置を接続している一般電話回線や MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)に電話をかけて、現在の入力信号の状態を確認することができます。(設定ソフトで「テレコン」にチェックを入れた場合)

入力信号の状態を音声で聞く

設定ソフトでパスワードを「1234」に設定した場合の手順は次のようになります

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話を取り、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C 「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
- ③ パスワード 4 桁「**1234**」をダイヤルし「**#**」を押します。
パスワードが合っていれば入力信号の状態が音声で繰り返して聞こえます。
例 1：入力 1、入力 2 が ON の場合
音声チャンネル 0 「こちらは××です」
音声チャンネル 1 「入力 1 が ON です」
音声チャンネル 2 「入力 2 が ON です」
この 3 つの音声が続り返し聞こえます。
例 2：設定ソフトで停電通報が ON で停電状態の場合
音声チャンネル 0 「こちらは××です」
音声チャンネル A 「停電が発生しました」
この 2 つの音声が続り返し聞こえます。
例 3：入力が全て OFF の場合
音声チャンネル 0 「こちらは××です」
音声チャンネル 9 「全ての警報は解除しました」
この 2 つの音声が続り返し聞こえます。
- ④ 「**#**」を押すと②のパスワード入力に戻ります。
 - ・ 「WL21N」からは電話を切りません。内容を聞いたら電話を切ってください。
 - ・ 音声再生される入力信号の状態はパスワードを受け付けた瞬間の状態です。
④の状態でもメッセージを聞き続け、その間に入力信号が変わってもメッセージは変わりません。適当なときに「**#**」を押してパスワード入力からやり直してください。パスワードを受け付けた瞬間の状態が新たに取得され、最新の状態が確認できます。

パスワードを間違えた場合

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話を取り、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C 「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
- ③ 違ったパスワード4桁「9999」をダイヤルし「#」を押すと、パスワードが違ったので再入力を促す音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル D 「一致しません。もう一度」
音声チャンネル C 「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
この2つの音声が続り返し聞こえます。
- ④ もう一度、違ったパスワード4桁「8888」をダイヤルし「#」を押すと、パスワードが違ったので再入力を促す音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル D 「一致しません。もう一度」
音声チャンネル C 「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
この2つの音声が続り返し聞こえます。
- ⑤ 違ったパスワード4桁「7777」をダイヤルし「#」を押すと、パスワードを3回間違えたので「WL21N」は電話を切ります。

出力信号を ON、OFF するとき

本装置を接続している一般電話回線や MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)に電話をかけて、4 点ある出力信号をそれぞれ ON、OFF する操作ができます。

※1 秒間だけ ON するパルス出力もできます。

※「入力信号の状態を確認するとき」と違う点はパスワードを入力した後で「*#」を入力することです。

出力信号 1 を ON

(※パスワードを「1234」、出力信号 1 の ON コマンドを「0001」に設定していた場合)

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話をとり、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C 「パスワードを入力し最後に#を押してください」
- ③ パスワード4桁「1234」をダイヤルし「*#」を押すと、コマンド入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル E 「コマンドを入力し最後に#を押してください」
- ④ コマンド4桁「0001」をダイヤルし「#」を押すと、対応する出力信号 1 が ON になります。
そしてコマンドを受け付けた音声が繰り返して聞こえます。
音声チャンネル F 「受け付けました」
- ⑤ 「#」を押すと②のパスワード入力に戻ります。

出力信号 1 を OFF

(※パスワードを「1234」、出力信号 1 の OFF コマンドを「0005」に設定していた場合)

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話をとり、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C「パスワードを入力し最後に#を押してください」
- ③ パスワード 4 桁「1234」をダイヤルし「*#」を押すと、コマンド入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル E「コマンドを入力し最後に#を押してください」
- ④ コマンド 4 桁「0005」をダイヤルし「#」を押すと、対応する出力信号 1 が OFF になります。
そして、コマンドを受け付けた音声が繰り返し聞こえます。
音声チャンネル F「受け付けました」
- ⑤ 「#」を押すと②のパスワード入力に戻ります。

パスワードを間違えた場合

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話をとり、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C「パスワードを入力し最後に#を押してください」
- ③ 違ったパスワード 4 桁「9999」をダイヤルし「*#」を押すと、パスワードが違っていたので再入力を促す音声が繰り返し聞こえます。
音声チャンネル D「一致しません。もう一度」
音声チャンネル C「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
この 2 つの音声が繰り返し聞こえます。
- ④ 違ったパスワード 4 桁「8888」をダイヤルし「*#」を押すと、パスワードが違っていたので再入力を促す音声が繰り返し聞こえます。
音声チャンネル D「一致しません。もう一度」
音声チャンネル C「パスワードを入力し、最後に#を押してください」
この 2 つの音声が繰り返し聞こえます。
- ⑤ 違ったパスワード 4 桁「7777」をダイヤルし「*#」を押すと、パスワードを 3 回間違えたので「WL21N」は電話を切ります。

コマンドを間違えた場合

- ① 「WL21N」に電話をかけます。
- ② 「WL21N」が電話をとり、パスワード入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル C「パスワードを入力し最後に#を押してください」
- ③ パスワード4桁「1234」をダイヤルし「*#」を押すと、コマンド入力を促す録音した音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル E「コマンドを入力し最後に#を押してください」
- ④ コマンド4桁「9999」をダイヤルし「#」を押すと、コマンドが違っていたので再入力を促す音声が続り返し聞こえます。
音声チャンネル D「一致しません。もう一度」
音声チャンネル E「コマンドを入力し最後に#を押してください」
この2つの音声が続り返し聞こえます。
- ⑤ コマンドが合うまで③のコマンド入力に戻ります。
※パスワードの時と違いコマンドを何回間違えても「WL21N」は電話を切りません。

注意事項

- 「WL21NA」に一般電話からや携帯電話からテレコンが可能です。
- 「WL21ND」に一般電話からテレコンが可能です。一部携帯電話からもテレコンが可能です。
※使用可能な携帯電話機の詳細はQ&Aの79ページを参照下さい。
- 「WL21N」が通報中にテレコンはできません。通報箇所が6ヶ所全てに行うよう設定されていれば全ての通報が終了するまで待ってください。
- 「WL21N」に電話をかけ、「WL21N」が電話を取っても音声が続かない場合があります。そのときは「WL21N」が通報をしようとしていた可能性があります。一度電話を切ってしばらくしてからかけ直してください。
- テレコン中に入力信号がONになりOFFになったもの、またはOFFになりONになったものはテレコン終了後に通報はされません。
- テレコン操作の為に「WL21N」へ電話をかけた時、「WL21N」から電話を切る場合があります。
※電話をかけてから120秒以内にパスワードの入力しない場合。
※パスワードを1桁のみ入力してから120秒以内に何も入力しない場合。(コマンドも含む)

設置方法

設置場所を決める

本体を設置する前に、本書の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。
壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープを使用して下さい。
また、本体と接続されるケーブルが余裕をもって設置出来るような空間を確保して下さい。

制御盤などに設置する場合

制御盤などに設置する場合、WL21N のケースは GND になっています。制御盤に取り付けられる部分が GND になっていない場合、WL21N が抑圧されて正常に動作しません。制御盤と WL21N を絶縁して使用されるようお願いします。

接続工事

本体側の MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)「WL21ND」

NTT docomo の MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)を接続します。
FOMA、PHS は接続できません。

本体側の電話回線「WL21NA」

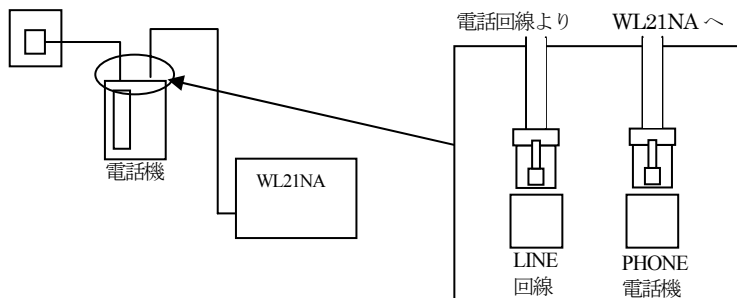
NTT 仕様の 2 線式のプッシュ回線及びダイヤル回線。ISDN 回線をご利用の場合は、ターミナルアダプタ(TA)のアナログポートに接続します。

※モジュラーコードが 10m 以上になる場合は、配線用 0.4mm をご使用下さい。
モジュラーコードでは、抵抗値が低くなる為に正常動作しない恐れがあります。

他の電話機や FAX などの回線と併用するとき「WL21NA」

本製品を既設の電話機やモデムの回線と併用するときは、終端に接続されるか、モジュラージャックを分配する自動転換器 (58ページ参照) をご使用下さい。

電話回線の終端に接続する場合「WL21NA」



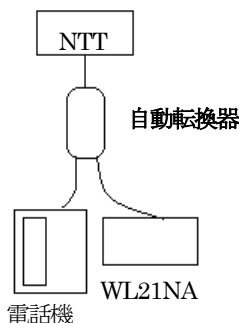
電話機、モデム等のモジュラーケーブル差込口
(差込口に明記されている LINE や、PHONE 等の文字は、必ずしも上記と同じものとは限りません。ご使用の機器の接続方式に従ってモジュラーケーブルを接続して下さい。)

モジュラージャックを分配する場合「WL21NA」

電話回線からきているモジュラーケーブルを分配出来ない場合でも、**自動転換器**（先に電話回線を使用している機器以外の機器が電話回線を使用することを禁止する機能付き）を使用することにより、他の機器に電話回線を分配することが出来ます。

※**自動転換器**はナカ電子の NT-325N を推奨します。(オプション品で販売しております)

※単純な分配器を使用した場合、通報中に電話機の受話器を上げた時に通報内容やブッシュトーンが聞こえ、混信によって通報が正しく行われなくなる可能性があります。



自動転換器 NT-325N

自動転換器を使用して、1本の電話回線で複数の WL21NA をご使用する事も出来ます。
※この場合テレコンは1台のみ使用可能です。他の WL21NA にはテレコンにチェックを付けないで下さい。

入力端子接続

接続に関するご注意

COM（共通端子）は端子の端から2番目になっていますお間違えのないように接続して下さい。
接続できる信号は無電圧のものに限ります。商用（AC）100Vや直流電圧がかからないようにしてください。

接続

各信号は COM（共通端子）と 1～8 の間に接続します。

信号は無電圧 a 接点（無電圧 b 接点）又は、オープンコレクタを接続します。

※電圧を加えると故障しますので、ご注意ください。

設定ソフトで各入力 of a 接点、b 接点を変更することもできます。

1 つの入力に複数の入力を並列に接続して一括故障などすることもできます。

入力は、700 ミリ秒以上(初期値)の間継続して ON（OFF）の時に、入力変化があったとみなし通報します。

端子台

信号入出力はコネクタ端子台になっています。圧着端子不要のワンタッチ式（又は押縮方式）で直接電線を接続できます。配線工事、メンテナンスの際にはワンタッチでコネクタを抜いて配線作業が行えます。

【ネジ締め式端子台】

信号入出力コネクタの接続電線範囲 AWG28～AWG16

電線むき長さ 7mm

締めつけトルク 0.22～0.25N・m

単線 又は より線

注意:電線の先端は予備ハンダをしないでください。

【ワンタッチ端子台】

信号入出力コネクタの接続電線範囲 AWG24～AWG16

電線むき長さ 9～10mm

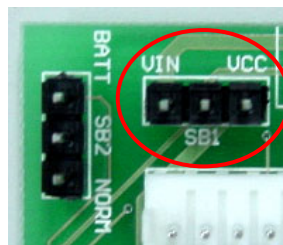
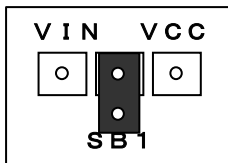
単線 又は より線（棒端子併用を推奨）

*電線を端子に接続後は引っ張るなどし、抜けないことを確認下さい。まれに端子内部の金具に挟まっていない場合があります。

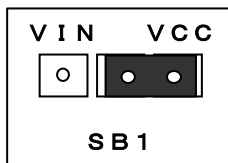
センサー用電源出力+端子と制御出力のC端子

入力端子の「+V」端子と出力端子の「C」は、外部センサーなどの電源に利用するための電源出力ですが、出荷時には電圧が出ておりません。ケースの蓋を開けると、「SB1」に短絡ソケットがあります。この短絡ソケットで「出力無し」、「DC5V」の切り替えができます。

- 短絡ソケットが中央に差し込める (出荷時) → 出力無しの状態 (制御出力は使用できません)



- 5V と中央に短絡ソケットを差す → 5V 出力



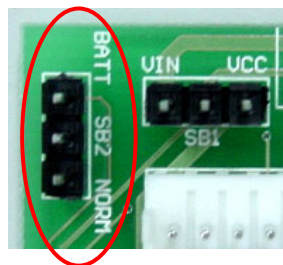
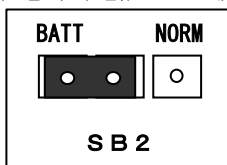
※ 「VIN」 は使用しないで下さい。

電池電圧低下通報

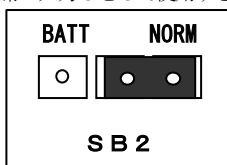
充電用電池の電圧が低下した場合に入力 8 を ON にすることができます。

設定方法は SB2 を BATT 側にしてください。入力 8 を通常に入力端子として使用する場合は NORM 側に設定してください。出荷時は NORM になっています。

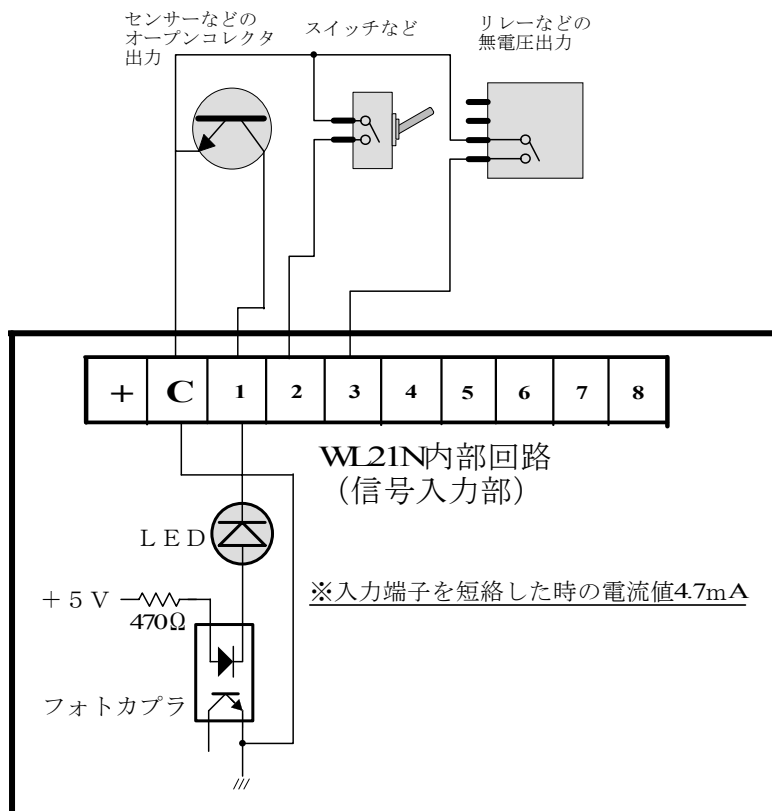
電池電圧低下通報をさせる場合



通常の入力 8 として使用する場合 (出荷時)



信号入力内部回路



AC アダプタの接続

アダプタ本体をコンセントに差し込み、アダプタから伸びているコードのプラグを「DC IN」にさし込みます。

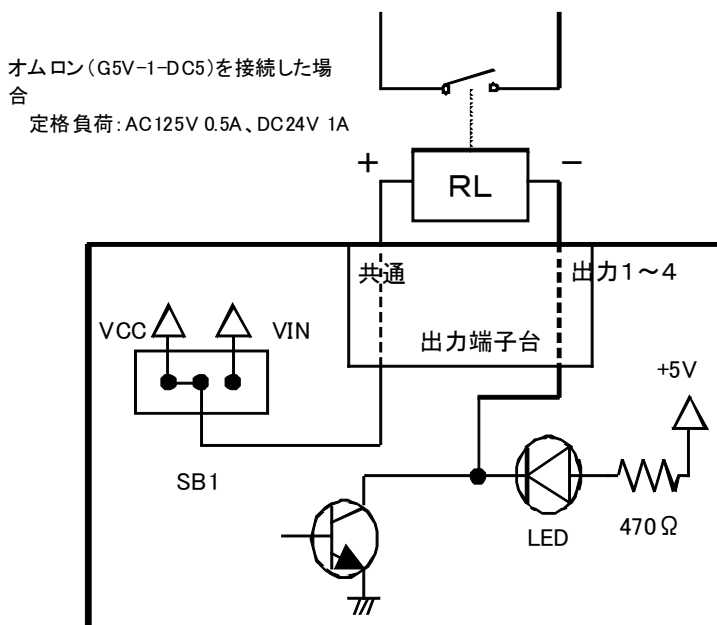
「電源ランプ」はACアダプタから電源供給が無いときでも内蔵電池から電気が供給されて、「電源スイッチ」ONにすると、点灯します。

制御盤内部のACコンセントを利用する場合、ACコンセントに電気が来ていないことがあります。

制御盤内部のブレーカーやスイッチでコンセント電源を入り切り出来る場合はご注意ください。

内蔵電池を取り外してから「電源スイッチ」をONにしたとき「電源ランプ」が点灯すればコンセントに電気がきています。

信号出力内部回路（テレコン制御出力）



WhiteLock21N

※出荷時、SB1 は VCC 側を短絡していません。

※ SB1 を VCC にした場合、10mA/1ch. 5V 出力されます。

※VIN 側を短絡しないで下さい。

運転の開始

「設定スイッチ」について

実際に現場に取り付けて使用するときは、「電源スイッチ」を ON にしている状態のときに「設定スイッチ」を ON にしないでください。（「電源スイッチ」を ON にしている状態のときは、「設定スイッチ」を OFF のままにしておいてください）

このような操作を行うと、音声での通報の際に正しいメッセージを送れなくなります。一見すると正常動作をしているように見えますが、音声チャンネルがチャンネル 1 しか使えなくなります。

通報の受信

受信装置

音声通報、タダ電通報を受信できるのは、一般電話機、携帯電話、PHS です。

携帯メールを受信できるのは、ドコモのFOMA携帯電話機・MOVA携帯電話機(2012年3月末停波)、トーンモデムです。

発信する文字は「フリーメッセージ」「拡張フリーメッセージ」「区点コード」です。

使用する受信装置の説明書を見て、受信できる最大文字数が何文字かを確認してください。

音声通報を電話機で受信したとき

電話のベルが鳴ったら受話器をとります。最初に録音チャンネル0の音声が開聞こえ、続いて該当する入力信号に対応する録音内容が開聞こえます。受話器を上げている間繰り返します。

「WL21N」は通報先が受話器をとってから120秒を過ぎると、通報装置が電話を切ります。この場合はしばらく待つと再び電話がかかってきます。120秒以内に受話器を下ろせば（受信した側で電話を切る）、通報装置は正しく相手に通報できたと認識して以後通報はしません。

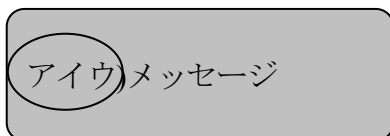
携帯メールを通報先に指定した場合

通報が終わると、ショートメールセンターから携帯電話にメッセージが送られます。時間帯によっては1分以上かかることもあります。

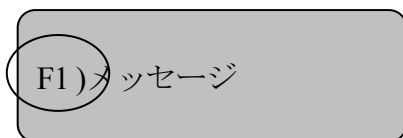
識別コード部の表示について

識別コードの後ろに")"が自動的に付加されます。これは、識別コードとその後ろに表示される

メッセージを見やすくするためです。 アイウ と入力した場合の例



F1 と入力した場合の例



メッセージ部の表示について

「全ての入力信号が解除になったときに解除通報を行います」に設定しているときで、

ポンプ1 故障 と入力した場合の例

00Qポンプ1 故障

「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」に設定しているときで、信号入力が「有り」の状態となり、設定で ポンプ1 故障 と入力した場合の例

00Qポンプ1 故障 ON

「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」に設定しているときで、信号入力が「無し」の状態となり、設定で ポンプ1 故障 と入力した場合の例

00Qポンプ1 故障 OFF

携帯メールを通報先に指定した場合のご注意

設定で、「各入力信号が解除するたびに解除呼出を行います」を選択された場合にメッセージが受信できない時は、メッセージ文字数を減らしてみてください。

(設定された送信メッセージの後へ「ON」「OFF」等が自動付加されるために文字数がオーバーしたためです。)

動作モニタ

表示モニタランプ

起動時

- 「WL21NA」の場合
電源 ON で LP1、LP2 が点灯します。
2 つとも点灯した 3 秒後にどちらかが先に消え、その 0.5 秒後にもう一方も消えます。
プッシュ回線なら LP2 が先に消え、ダイヤル回線なら LP1 が先に消えます。
- 「WL21ND」の場合
電源 ON で LP1、LP2、録音再生ランプが点灯します。0.5 秒後に消灯します。
- AC アダプタから電源が来ていなくて電池で動作している場合
録音再生ランプが 10 回高速点滅します。(本体バージョン 1.05 以降)
- 「電源 ON 時に 60 秒間入力信号を無視する」にチェックが付いている場合
電源 ON で 60 秒間 LP1 が低速点滅します。

設定スイッチ ON で起動したとき

- 「WL21NA」の場合
LP1、LP2 が点灯します。
- 「WL21ND」の場合
LP1、LP2、録音再生が点灯します。
- 設定ソフトで転送/読込を行った場合
転送中は LP1、LP2 ともに点滅します。
- 設定ソフトで転送/読込を行わない場合
LP1、LP2（録音再生）が点灯した後すぐに消灯し、音声を録音できる状態になります。
- 録音中の場合
LP2 と録音再生ランプが点灯します。
- 再生中の場合
LP1 と録音再生ランプが点灯します。

通報の状態から見たとき

- 電話を接続中
「LP1（黄色）」点灯（受話器を上げたときから受話器を下ろすまでの間）
- 話中であったとき
「LP1（黄色）」高速点滅(3秒間) このあと3項に進む
- リダイヤル待機中
「LP1（黄色）」低速点滅(リダイヤルを開始するまで) 待機時間終了で1項へ進む
- 相手が電話に出なかったとき
「LP2（赤色）」高速点滅(3秒間) このあとで「LP1（黄色）」が消灯する
- 使われていない番号にかけたとき、または電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき
発信開始で「LP1（黄色）」が点灯し、しばらく待つと、「LP1（黄色）」と「LP2（赤色）」が両方とも高速点滅(3秒間) この後「LP1（黄色）」、「LP2（赤色）」は消灯し、3項へ進む（相手先番号の確認が必要）
- 発信先（相手）が受話器を取ってから通話後に受話器を下ろして通報が終わったとき
「LP1（黄色）」は消灯し、「LP2（赤色）」が一定時間高速点滅します。その後「LP2（赤色）」は消灯します。
- 携帯プラグやモジュラープラグがMOVA携帯電話機(2012年3月末停波)や電話回線に接続されていないとき発信時に「LP1（黄色）」が点灯しダイヤルを開始します。「LP1（黄色）」のランプは点灯したままの状態となります。
- 設定モードのとき
「LP1（黄色）」、「LP2（赤色）」とも点灯

ランプの点灯状態から見たとき

LP1（黄色）	LP2（赤色）	通報の状態
消灯	消灯	電話が切れている。 通報は全て完了している。 入力信号待ちの状態。
点灯	消灯	電話をかけているとき。 電話がかかってきたとき。 着信処理中。
低速点滅	消灯	リダイヤル待機中
高速点滅	消灯	話し中の時
点灯	点灯	設定モードのとき
消灯	高速点滅	通報が正常に終わった後の6秒間の間。 テレコンが正常に終わった後の6秒間の間。
点灯	高速点滅	一定時間待っても通報先が電話に出ず、通報装置が電話を切った後の3秒間の間。
高速点滅	高速点滅	使われていない番号にかけたとき。 電波の状態が悪くて正しくダイヤル出来なかったとき。 メール送信中に途中で回線が切れてしまったとき。
電源ON時、交互高速点滅		設定がされていない。

停電保証について

充電式電池が新品の場合で、完全充電されている状態では1時間以上動作し続けます。

(但し発信する回数により増減します。)

停電保証時間は入力端子が全てOFFの時の時間です。入力がONでLEDが点灯していると、その分電力を消費しますので、保証時間は短くなります。

停電保証充電電池

- 製品に内蔵の電池は、ニッケル水素充電電池です。
- 内蔵電池の充電はACアダプタが正しく接続され、商用電源が供給されているときは「電源スイッチ」がOFFでも充電しています。
※充電はトリクル充電方式により、過充電にならない程度に弱い充電を常時行っております。
電気代はわずかですが、長期間にわたって通報装置として使用されないときはACアダプタをコンセントから抜いておかれることをお勧めします。
※停電保証が不要（停電通報しない）のときは設置時に取り外してください。
- 電池は2年以上使用可能です。手動で、停電状態（ACアダプタのプラグを抜いた状態）にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。
- ACアダプタから電源を供給せずに「電源スイッチ」をONにしてお使いになるような場合や、停電が長引いて電池の電圧が完全になくなったときは、完全充電までに72時間以上かかることがあります。
- 電池の交換をするときは、ケース横のネジ8本をはずして横蓋と上蓋をはずして下さい。
電池は下ケースに貼り付けてありますので、基板のネジ4本もはずして下さい。

交換する電池は、必ずニッケル水素充電電池 006P型・9V仕様をご使用下さい。

※アルカリ乾電池をつなげますと火災の原因となります。爆発するおそれもありますのでご使用は絶対にお止め下さい。

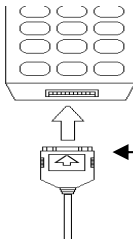
D タイプのみ必要な設定

MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の設定

1. 暗証番号またはロックコードを初期値（購入時の状態または設定されていないときの状態）例えば、「0000」などに変更して下さい。（このとき登録済みの番号を控えておいてください）
MOVA 携帯電話機の機種によってはこの設定が不要場合があります。確認方法は動作確認後にこの設定を任意のものへ変更して正常に発信動作すれば初期値に設定する必要はありません。
※暗証番号またはロックコードの設定方法は各携帯電話機の説明書をお読みください。
2. MOVA 携帯電話機のバッテリー消費を抑える為、以下の設定をしてください。「省電力モード」にする。着信音時に音を鳴らさない、パイプレータの設定で振動させないにする。留守番電話機能は無効にする。

MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の接続

本体に付属の携帯ケーブルを接続して携帯プラグを MOVA 携帯電話機のジャックに接続します。コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。コネクタを外す場合はプラグ横のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。コネクタが接続されると、MOVA 携帯電話機の電源が ON になります。（既に MOVA 携帯電話機の電源が ON になっている場合は、ON のままです。）
MOVA 携帯電話機の電源を OFF にしてからコネクタを接続すれば、コネクタの接続と同時に MOVA 携帯電話機の電源が ON になるのでケーブルの接続確認が出来ます。



MOVA 携帯電話機の機種によって、コネクタを差し込む上下面は異なります。

MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)への充電

ACアダプタから電源が供給されている場合に、定期的に充電します。
本体の電源をオンにすると充電状態(100分間)となります。一定時間(およそ24時間)毎に充電を繰り返します。

※ MOVA携帯電話機の充電電池が全く無い状態になってしまうと充電は行うことが出来ません。

参考：MOVA携帯電話機のバッテリーは最大充電回数500回程度のものが多く使われています。
高度な自動充電回路を接続してもこの回数を越えることはできません。
従って本装置では最も単純で確実な定期充電方式を採用しております。
MOVA携帯電話機は、携帯の電池を取り外した状態では使用できないようになっています。

「WL21ND」にMOVA携帯電話機を接続した状態では携帯の電池が寿命となっても引き続き利用できる場合がありますが、電源プラグを抜いたときにMOVA携帯電話機の電源が切れる、電源が入らなくなったときはMOVA携帯電話機の電池を新しいものに交換してください。

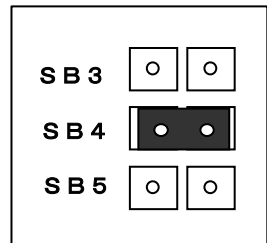
MOVA携帯電話の充電中に「WL21ND」本体が暖かくなることがありますが、故障ではありません。充電はおおよそ100分で終了します。

MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の充電電圧の設定

MOVA携帯電話機をはずして電源をOFFにしてから設定作業を行ってください。

本体のケースを開けると基板上に「SB3」「SB4」「SB5」のショートバーがあります。このショートバーに短絡ソケットを差し込み事でMOVA携帯電話機の充電電圧を設定します。

名前	充電電圧	MOVA携帯電話機付属のACアダプタに記載の電圧	
SB3	5.4V	～5.4V	
SB4	5.6V	5.5V～5.7V	出荷時
SB5	5.8V	5.8V～	



使用するMOVA携帯電話機の充電用ACアダプタに書いてある電圧の値が、上表での電圧の範囲内にある充電電圧を選んでください。

※MOVA携帯電話機のバッテリーに書いてある電圧ではありません。



MOVA 携帯電話の充電アダプタに書いてある電圧の値です。

使用上の注意事項「WL21ND」

- ・ 通報中に MOVA 携帯電話機から携帯のプラグを抜き取るなど、MOVA 携帯電話機のボタン操作をするなどしないで下さい。「WL21D」が誤動作します。
- ・ **SB3～5 のショートバーを抜いた状態で使用すると MOVA 携帯電話機が壊れますので注意してください。**

Q & A 困ったときにご覧ください

タイプ共通	71
一般的なご質問	71
通報・設定についてのご質問	74
携帯メールについてのご質問	77
テレコンについてのご質問	79
一般回線タイプ「WL21NA」についてのご質問	80
MOVA 携帯タイプ「WL21ND」についてのご質問	82
設定ソフトについてのご質問	85

タイプ共通

一般的なご質問

Q. 「WL21NA」と「WL21ND」を区別する方法は？

- A. 電源スイッチを入れて「録音再生ランプ」が一瞬点灯する場合は「WL21ND」です。
点灯しない場合は「WL21NA」です。(設定スイッチは関係ありません)

Q. 取り付けは素人でも出来ますか？

- A. 侵入通報の用途で、ドアセンサーなどを接続する場合は簡単にに取り付けできます。制御盤などに取り付けるときは、電気工事業者にご相談ください。

Q. 屋外に設置したいのですが。

- A. 製品は、防水暴雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等に晒される場所では適当なケースに組み込んでください。

Q. 装置を取り付けるところに電源が無いのですが。

- A. 充電された自動車用バッテリーを使うことで長期間の連続利用が可能です。その際には、オプション品の『DC/AC インバータ』をご使用下さい。
バックアップ電池だけで動作させた場合は、1 時間程度ご利用になれますが、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)への自動充電機能は動作しません。

Q. どの位の大きさですか？

- A. ケーブルや突起部分を除いて、縦 132 x 横 150 x 厚み 48 (mm) です。

Q. 業務用に使った場合に問題はありますか？

- A. まったく問題ありません。

Q. 保証はありますか？

- A. はい、ご購入後 1 年間です。

Q. 装置の寿命は、どれくらいですか？

- A. 故障するケースで最も多いと考えられるのは電話回線や電源からカミナリが入る場合ですが、これはモデム通信装置などでも同様です。防止策としては業務用の回線用避雷器や電源避雷器を組み込むことで改善されます。「WL21ND」MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)タイプは、「WL21NA」一般回線タイプとくらべてカミナリの影響は受けにくいと言えます。
「WL21NA」は内部の部品に機械的な接点を使用していないので、長寿命です。
「WL21ND」は約 10 年です。

Q. 付属の充電池はどれくらいの期間使用できますか？

- A. 2 年以上使用できます。もし、停電状態 (AC アダプタのプラグを抜いた状態) にして、停電保証が必要な時間内に電源ランプが暗くなるようでしたら交換が必要です。

Q. マイクやスピーカーは付属していますか？

- A. はい、イヤホンマイクが付属しています。

Q. 通信ケーブルをなくしてしまったのですが。

A. RS232C ストレートケーブルです。コネクタは D-sub9pin オスーD-sub9pin メスです。パソコン等を取り扱っているお店で購入できます。

Q. 一般回線用と MOVA 携帯電話機用の兼用タイプの製品がありますか？

A. ありません。コストダウンの為に別々となりました。

Q. 1つのセンサーを2台の WL21N に接続できますか？

A. 2つの無電圧接点信号を並列に WL21N へ接続する事は可能です。1つの回線で複数台の WL21NA を使用する場合は、自動転換器 をご使用下さい。

Q. 1つの入力接点に2つのセンサーを接続できますか？

A. 可能です。

Q. DC アダプタ「DC-ADV01」を使うと停電保証電池に充電が出来ないのですが。

A. はい、出来ません。24V を 9V に変換するアダプタを使用すれば可能です。

Q. 付属された AC アダプタとは別の AC アダプタを使用したいのですが。

A. 付属品以外の AC アダプタを使用されますと動作保証外となり、保証が効かなくなりますのでおやめください。

Q. 以前購入した時と、今回購入した時と付属の AC アダプタが違うのですが。

A. 製造中止や、その他の理由により付属品が変わる場合があります。

Q. 入力 LED が点灯しないのですが

A. COM と入力 1 (又は 2～8) を短絡させて下さい。+V と入力 1 を短絡させても点灯しません。端子台とケースの印刷を確認してください。

Q. 2秒間の無電圧接点出力のあるパッシブセンサーを使用できますか？

A. できます。700 ミリ秒以上(初期値)の間継続して ON(OFF)の時に、入力変化があったとみなし通報します。この時間は設定ソフトで変更可能です。

Q. 無電圧接点を 10m くらいの線で入力させても問題ありませんか？

A. 問題ありません。50m までであれば、0.75mm²以上の線で雷対策（埋設）を行えばご使用頂けます。誘導雷の混入を防ぐ為に必ず埋設して下さい。

Q. センサー用電源出力が出ないのですが？

A. 「+V」端子は、外部センサーなどの電源に利用するための電源出力ですが、出荷時には電圧が出ておりません。ケースの蓋を開けると、「SB1」のショートバーがあります。このショートバーの短絡ソケットで「出力無し」、「DC5V」の切り替えができます。「センサー用電源出力」60 ページを参照してください。

Q. チップをバージョンアップしたら動作が変わってしまいました。

A. 設定ソフトで設定をやり直してください。設定データはバージョンアップ時に交換するチップに保存されています。チップを交換すれば以前の設定データは変わってしまいます。また、音声の録音時間も変わってしまいますので再度、録音してください。

Q. WL21N に付属してある取付金具がありますが、本体にネジがきつてないのですが大丈夫ですか？強引にネジを挿すとケースの切りくずが出て動作に影響しませんか？

A. 大丈夫です。過去に切りくずが問題になったことはありません。

Q. 設置後 WL21N が動作しているのを確かめたいのですが。

A. 「WL21N」に電話をかけると動作していることを音声で確認できます。この場合、設定で着信を許可しておく必要があります。テレコン(53ページ)、テレコンの設定(30ページ)を参照してください。

Q. キャビネットに取り付けると正常に動作しません。

A. WL21N のケースは GND になっています。取り付けられるキャビネットも GND になっていると思われますが、その GND が浮いている状態だと思われます。WL21N の GND とキャビネットの GND の電位が違う状態で接触すると WL21 が抑圧されて正常に動作しません。キャビネットと WL21N を絶縁して使用されるようお願いします。

通報・設定についてのご質問

Q. 設定をしたのですが通報がきません（音声・メール・タダ電）

- A. 設定内容で『通報先の電話番号』を入力する際にハイフンはいれなくて下さい。
ハイフンを入れると、最初のハイフンまでの番号のみ登録しませんので通報がきません。
登録した設定内容を読み込み、確認して下さい。

Q. 音声通報で通報先の電話に出たのに無音のままです。

- A. 通報装置が呼出音（ブルル音）を検出できないため、音声の再生が始まらない状態です。
- ・コール音（又は着信音）が3回以上鳴ってから電話をとってください。
（通報先が携帯電話の場合のみ）
 - ・通報先の携帯電話がiモード通信中で、音声着信を「着信応答」にしている場合などに「おかけになった電話はただいま呼び出しています。しばらくお待ち下さい。」とアナウンスが流れます。この間、通報先の着信音は鳴っているのに、電話をかけた側には呼出音（ブルル音）が聞こえない状態があります。この場合、通報先では5回くらい呼出音を鳴らしてから電話に出ないと、正常通報になりません。
 - ・通報先の携帯電話が『メロディコール』（ドコモ）又は『待ちうた』（au）サービスに契約されていると、電話をかけた側には呼出音がブルル音に音楽が混じって（又は音楽のみ）聞こえます。この場合、通報先の携帯電話機から設定変更すれば正常通報します。着信電話番号（通報装置から発信する番号）の設定をブルル音に変更して下さい。

Q. 呼出音が鳴りすぐ受話器を取ると、また電話がかかってくる

- A. 呼出音を3回以上鳴らしてから受話器を取ってください。受話器を取るのが早すぎると、回線異常とみなし、もう一度電話をかけてきます。

Q. タダ電通報で呼出音が鳴る回数を指定したい

- A. できません。呼出音が鳴ったと判定されたら電話を切ります。通報先の電話機の着信履歴に残すことを目的にしています。

Q. 携帯電話にタダ電通報をしていると何回も通報してくるのですが。

- A. タダ電通報は呼出音が聞こえたら正常通報となりますので、呼出音が聞こえない状態では何回も電話をかけてしまいます。例えばドライブモードにしていると、呼出音が鳴らずにアナウンスだけが流れます。また、留守番電話サービスの呼出音の鳴る回数を0回にしているも、呼出音が鳴らないので何回も電話してしまいます。

Q. 留守番電話で通報を受けると何度も通報してきます。

- A. 留守番電話の録音時間が120秒以上になっていませんか？本装置は通報時に通話時間が120秒以上になると異常と判断しもう一度通報します。留守番電話の録音時間を短くすれば正常に通報が終わります。携帯電話の留守番電話サービスでは録音時間が変更できませんので、何度もかかってくる場合は留守番電話の機能は使用しないで下さい。

Q. 呼び出し回数が無制限なのは、なぜですか？

- A. 確実に通報する為です。途中で止めては通報装置ではない、という考えだからです。

Q. WhiteLock 集中監視に通報させるには？

- A. 通報先の設定で「通報先の電話番号」に WhiteLock 集中監視専用モデムが繋がっている回線の電話番号を入力します。「携帯メールセンター」で「WhiteLock 集中監視」を選択します。送信メッセージの「識別コード」を「フリーメッセージ」で使用可能な文字（半角文字）で設定してください。句点コード（全角文字）でメッセージが始まると専用モデムが受信しません。

Q. 接点毎に異なる通報先を指定したいのですが？

- A. できません。

Q. 通報先の電話に誰も出ない場合はどうなりますか？

- A. 電話をかけ、30 秒間呼出音を鳴らして、電話を切ります。10 秒待機して、また電話をかけます。以後その繰り返しです。MOVA 携帯電話機(WL21ND)から通報していたら、MOVA 携帯電話機の電池が無くなり、電話がかかけられなくなります。

Q. 現在使われていない電話番号に通報するとどうなりますか？

- A. 通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。ご利用の前には設定後に動作試験を必ず実施してからご使用下さい。

Q. 発信者番号を通知するには？

- A. 音声通報、タダ電通報の場合は、通報先の電話番号の先頭に「186」を入力してください。携帯メールの場合は「186」を入力しないで下さい。

Q. 1 回の通信に要する時間はどれくらいですか？

- A. 携帯メールで通報するときは、文字数により通話時間が変わります。全角 1 文字送信するのに 2 秒、半角 1 文字送信するのに 1 秒かかります。10 文字の全角文字メッセージを送信する場合は、メールセンターへ電話をかけたり、切ったりする時間を含めて 40 秒程度です。音声通報の場合は受けた側が電話を切るまでです。

Q. 接点入力と音声通報のメッセージが違うのですが

- A. チャンネルとメッセージの録音が正しいか再生して確認して下さい。「録音再生」40ページを参照して下さい。

Q. 通報を受けたとき、入力信号のどれが ON になっても同じメッセージが聞こえるのですが

- A. メッセージ録音時に、録音チャンネル 0 だけで録音していませんか。「録音再生」40ページをご覧になり設定方法を確認して下さい。

Q. 通報時にノイズが入るのですが。

- A. 入力接点に接続してあるものを外してください。制御盤に取り付けられている場合は外してください。それで外して見てノイズが出なければ、端子、ケースがアースになっていますのでそこからノイズが入っている可能性があります。また、モジュラーケーブルもノイズの影響を受けますのでシールドしてみてください。また、接点から直接ノイズが入っている場合にはリレーを入れるなどしてノイズが入らないようにしてください。

Q. 誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？

- A. 1. 電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません
 2. 電話を受けた側が電話を切れればその時点から電話代はかかりません
 3. 携帯メールセンターに電話をかけたときには一定時間が経過するとサービス会社の側から電話を切りますのでそれ以上電話代はかかりません。但し、**通報先の設定がショートメールを受信出来ない番号**(ショートメールサービスを契約していない、ショートメール拒否設定になっている、解約等で番号が存在しなくなった、その他)の場合、多額の電話代が請求される事がございます、必ず設定時の確認、また通報先に登録してある携帯電話の解約時、ショートメールサービス停止時の通報装置の設定変更を行ってください。ショートメール受信が出来ない電話機に対するショートメール通報によって多額の電話代が請求された場合、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- 上の2番目の場合に受話器を正しく戻さなかったときでも一定時間(120秒)経過すると電話を切るようになっていきます。いずれの場合であっても誤動作によって電話代が多くかかることはありません。安心してご利用ください。
- (必ず、[安全にお使いいただくために](#)をご覧ください)

Q. 停電保証時間を超えてから復電した場合、復電通報を行いますか？

- A. 行いません。停電保証時間を超えてから復電した場合、電源をONし直した時と同じ状態です。

Q. 停電通報はありましたが、復電通報が12時間も遅れてきました。なぜでしょうか？

- A. 複数の通報先が全て「必ず通報する」にしてあり、停電発生 of 通報が終了していなかったのではないのでしょうか。「必ず通報する」に設定してある場合、1ヶ所でも通報が終わらなければ永遠に通報しようと電話をかけ続けます。停電発生 of 通報が終了できないため、復電しても復電通報が来ないということになります。「必ず通報する」の設定をする通報先には電話を受けられる番号だけを登録してください。夜は電源を切ってしまう携帯電話などを通報先に設定していると、この様なことがおこります。

Q. 停電通報だけ電話がかかりません。

- A. 停電保証充電電池の充電が不十分な為、ACアダプタを抜くとランプは点灯しても電話をかけることができません。出荷時には付属の停電保証充電電池には充電が十分されていませんので、本体を72時間通電させてください。停電保証充電電池の充電が行われます。そのあとで停電通報させてみてください。

Q. 音声録音再生はどのようにして行うのですか？

- A. 本体上面に録音、停止、再生の各ボタンと録音再生中を示すランプがあります。録音する場合は「録音」と「停止」ボタンを、再生する場合は「再生」ボタンを押して、付属のイヤホンマイクで録音します。

Q. 音声録音された内容をイヤホンで再生したとき、前より音質が悪くなりました。

- A. 携帯プラグがMOVA携帯電話機に接続されていると再生時の音質が悪くなります。また、ACアダプタを使わず、内蔵電池のみで使った場合に電池の残り電圧が不足していると音質が悪くなります。

携帯メールについてのご質問

Q. 携帯メール (文字メッセージ) 通報とは

A. ドコモの『ショートメール』サービスを使用した文字メッセージ通報です。

※『ショートメール』サービスは2012年3月31日をもって終了します。2012年

4月1日以降は使用出来ませんのでご注意下さい。メール通報が必要な場合は、弊

社の無料サービス『メール送信システム』をご利用下さい。(システムの詳細はホ

ームページでご確認下さい)

ショートメールサービスとは、携帯電話、PHS、一般回線電話などのプッシュトーンを送れる電話機から、ドコモの携帯電話へ文字メッセージを送るサービスです。

電子メール (E メール) ではありませんので、パソコンやドコモ以外の携帯電話機では受け取れません。

WL21N からドコモのショートメールセンターへメッセージを送ります。

- ・最大文字数 全角半角にかかわらず 50 文字
- ・センター保存 72 時間
- ・発信者番号 通知可
- ・WL21N で使用可能な フリーメッセージ(*2*2)
文字コード 句点コード(#)

Q. 携帯メール (文字メッセージ) 通報を設定したが、通報がこない

A. ・設定ソフトの「携帯メールセンター」が正しく選択されているかご確認下さい。

「WL21ND」をご使用の場合 → 「ショートメール (NTT ドコモから NTT ドコモ)」

「WL21NA」をご使用の場合 → 「ショートメール (NTT ドコモ)」

- ・「通報先の電話番号」の先頭に「186」が入力しないで下さい。
- ・「通報先の電話番号」がショートメールを受信出来ない電話機番号を設定していないかご確認下さい

1. 固定電話番号
2. 使用されていない携帯電話番号
3. ドコモ以外の携帯電話番号
4. ショートメール (又はSMS) の受信を拒否設定している携帯電話番号

※上記の電話番号を入力していると、多額の電話代が請求される場合がございます。

ショートメール受信が出来ない電話機に対する文字メッセージ通報によって発生した多額の電話代請求について、弊社は一切その責任をおいかねますので予めご了承下さい。

Q. ドコモの携帯に半角の小さいカタカナ「アイウエオヤエヨツ」を送信したい

A. できません。全角の小さいカタカナ「アイウエオヤエヨツ」なら送信できます。

Q. 携帯メールのメッセージが文字化けするのですが

- A. 受信装置がメッセージを受信したとき、なんらかの電波ノイズが混入したときに起きる可能性があります。

「WL21ND」の場合、電波の状態が悪いために電話が途中で切れたときは、文字が表示されず、着信音が鳴るだけでメッセージが表示されないことがあります。

この様な現象が頻繁に起きる場合は、2カ所の通報先に同一の携帯番号を設定して、2度呼出しを行うことで回避できる場合もあります。

また、送信するメッセージが長すぎると文字化けしやすくなります。メッセージを短くしてみてください。

Q. 通報先をショートメールにしていると遅れて通報されることがあるのですが。

- A. 携帯電話のメール自動受信は送信所から一度しか送信されません。また、定期的に再送されることもありません。何かのキッカケ（アクション）があるとそのときに未通知のメールが届きます。原因は電波の具合が悪くたまたま届かなかったものと考えられます。ドコモの場合は、各所にある送信アンテナを自動判別するようになっています。このため、山の山頂などではドコモは不具合の発生率が高いと聞いております。たまたまメール通知の電波が来たとき、電波のある程度強い場所でも、運悪くすぐ近くでたくさんの携帯電話が使われている場合など電波が分散されてしまい、遠くの送信アンテナを探しに行ったりします。滅多にはないことだと思いますが、電波を使う上で完全なものとはならないこともあります。

テレコンについてのご質問

Q. テレコン (テレコントロール) とは

A. 外出先から電話を使って、機器の状態を確認したり制御したりすることです。

Q. 制御出力4点の状態をテレコンで確認出来ますか？

A. 出来ません。入力8点の状態のみ確認できます。

Q. FAX など他の電話と並列に繋いでいるときでもテレコンが可能でしょうか？

A. この場合、早い者勝ちで電話をとることになりますので、テレコンを使用する場合は他の機器と並列に繋がらない様にして下さい。

Q. テレコンの状態確認で入力1がONに設定されていても『全解除』のメッセージが流れる

A. 入力1の通報が終了してからテレコンで状態確認をして下さい。

Q. テレコンで音声途切れで無音になります。

A. テレコン時はDTMF音を受信すると音声を止めるようになっています。再生音声とDTMF音が重なるとDTMF音を正しく受信できないためです。録音された音声にDTMF音と近い音が混じっていると、DTMF音と認識してしまい音声が止まってしまいます。録音をやり直して再度、確認してみてください。

一般回線タイプ「WL21NA」についてのご質問

Q. 接続出来る一般回線とは

A. 使用出来るのは、NTT仕様で2線式のプッシュ回線またはダイヤル回線です。

NTT準拠のアナログポートにつなげて下さい。

例えば ISDN回線・ADSL回線・ひかり電話・IP電話・PBX

※それぞれ専用の信号変換機器やモデム又はTA（ターミナルアダプタ）等のアナログポートに接続します。

《 使用出来ない回線 》

携帯電話機・PHS・ビジネスホン・ホームテレホン・4線式電話機・専用線

Q. 装置はISDN回線を使用できますか？

A. 「WL21NA」一般回線タイプは、ISDN回線に直接接続することは出来ません。ターミナルアダプターのアナログポートをお使い下さい。

Q. 内線発信に対応していますか？

A. 対応しています。「PBXでの使用について」13ページをご覧ください。

Q. 電話が繋がらない

A. ビジネスホン、ホームテレホン、4線式電話機は接続することは出来ません。

アナログPBX交換機を介した接続についての注意は、9ページの「制限事項」をご覧ください。
また、普通の電話機（一般家庭で使われている電話機です）を接続して使用できるか調べてください。交換機によっては、電話をかける場合特殊な番号、たとえば「#9」などを最初にダイヤルしないとつながらないものもあります。

Q. PBX で電話がかかりません。

A. PBX で使用する場合、回線の種類の自動判定（パルスかトーンの判定）がうまく出来ない場合があります。その場合は設定ソフトで使用される回線の種類を「プッシュ回線」か「ダイヤル回線」で指定してください。

Q. 社内の内線が0発信ではなく「*0」で外線に発信するようになっていきます。対応できますか？

A. 「*0」による外線発信は可能です。設定ソフトの「外線発信番号」ボタンを押して入力すると「0,」と電話番号の先頭に入力されます。その後で「*0,」に修正してください。「,」は0.5秒待つという意味ですので待ち時間がもっと必要なら「,」を追加してください。

Q. 1本の電話回線で複数のWL21NAを使用したいのですが。

A. 電話自動転換器を使用すれば可能です。最初に入話器を上げた回線が有効になり、他の回線に割り込ませないことが可能です。自動転換器はオプション品の『NT-325N』をご使用下さい。テレコンを行う場合は、どれか1台のWL21NAだけテレコン可能にし、他のWL21NAはテレコンが出来ないように設定してください。

Q. 本体に携帯コネクタが付いていますが、使えますか？

A. ご利用になれません。付いているだけです。

Q. 通報を受けたとき音声はすぐに再生されません。

- A. 通報先が電話に出たのか判定するのに呼出音が3秒以上聞こえないことを確認している為です。呼出音が鳴るタイミングにもよりますが、受話器をあげてから1秒～3秒後に音声メッセージが流れ始めます。

Q. 電話に出ても何回も通報してきます。

- A. 録音をやり直すか、他の人に録音してもらってください。録音するとき音声の後に無音状態を2秒入れておくとう解決する場合があります。WL21NAは、呼出音が鳴らなくなったのを確認して相手が電話に出たと判断します。また話中音が聞こえるのを確認したら、相手が電話を切ったと判断します。すべて音で判定しているため、録音された音声に呼出音や話中音と同じ400Hz前後の音が混じっていると、正確に判定できない場合があります。

MOVA 携帯タイプ「WL21ND」についてのご質問

Q. PHS を装置に取り付けることができますか？

A. できません。

Q. 受信装置に PHS が使えますか？

A. 利用可能です。

Q. 装置を取り付けるところでは MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)が圏外となるのですが。

A. 「WL21ND」 MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)タイプは MOVA 携帯電話が圏外の場所ではご利用になれません。

「WL21NA」一般回線タイプは、取り付ける場所が圏外でも電話回線との接続が可能な場所であれば問題ありません。

Q. 本体にモジュージャックが付いていますが、使えますか？

A. ご利用になれません。付いているだけです。

Q. 市販されている携帯ケーブル（パソコンのシリアルと携帯電話を接続するケーブル）を携帯コネクタに挿して使用できますか？

A. 配線が違うので、ご利用になれません。また、付属の携帯ケーブルを、パソコンと携帯電話を接続するケーブルとしては使用できません。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)と本体を接続するケーブルを延長できますか？

A. できません。長くするとノイズが入り正常に通信できなくなる可能性があります。

Q. 携帯電話からテレコン出来ますか？

A. 携帯電話機の組み合わせによっては、テレコンが可能です。

〔組み合わせの確認方法〕

WL21ND に接続している MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)を WL21 ND から外します、これを①とします。

WL21 ND に電話をかけて状態確認をするための携帯電話機を準備します、これを②とします。

①の MOVA 携帯電話と②の携帯電話を通話状態にします（どちらから掛けても良い）。

通話状態のまま②の携帯電話のダイヤルボタン（1・2・3 などの数字）を押します。

この時、①の MOVA 携帯電話機からビボパと聞こえれば②の携帯電話機からの状態確認が可能です。聞こえなければ②の携帯電話からの状態確認は出来ません。

Q. 「WL21ND」に携帯電話で電話をかけパスワードを入力しても次に進めません。

A. 携帯電話から「WL21ND」に電話をかけ、プッシュボタンを押してもブッシュトーンが

「WL21ND」側に届かないためです。携帯電話機の組み合わせによっては、ブッシュトーンが届く場合もあります。（上記の〔組み合わせの確認方法〕で確認できます。）

Q. 通報先に番号非通知で電話がかかると

- A. 通報先の設定で電話番号の先頭に 186 を付けてください。あるいは、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の設定で通知設定にしてください。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電源を切ることが出来ないのですが

- A. まず、WL21ND 本体の電源を切ります。その後、携帯プラグを MOVA 携帯電話機から抜いた後に MOVA 携帯電話機の電源を切る操作をしてください。

Q. 本体が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本体の電源を OFF にしても電話が切れないのですが。

- A. 本体の電源を OFF にした後で、MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電話を切るボタンを押してください。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電源を OFF にしたままで携帯プラグを差し込むと MOVA 携帯電話機の電源が勝手に ON になりますが大丈夫でしょうか？

- A. 故障ではありません。MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)を接続したのに ON にすることを忘れないようにこのようになっています。接続前に MOVA 携帯電話機の電源が ON になっていたときは ON のままとなりますが、MOVA 携帯電話機の電源が OFF になっているときに携帯プラグを差し込むと MOVA 携帯電話機の電源が ON になります。

Q. 本体の電源を ON にすると必ず MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の充電が始まるのですが

- A. 正常です。本装置は、本体の電源を ON にしたとき、充電から監視するように作られているからです。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の充電ランプが点滅するのですが

- A. 充電電圧があっていないと思われます。ジャンパーを切り替えて充電電圧を MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の標準充電器の電圧にあわせてください。

Q. 電源を入れてしばらくすると本体から「カチカチ」と音がします。

- A. 電池が少なくなっています。AC アダプタを挿してご利用ください。

Q. 録音した音声で通報を受信したときの音質は本体からイヤホンで再生したときと比べて音質が悪いのですが

- A. デジタル携帯電話機の音質が悪いからです。本装置の問題ではありません。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電源が切れてしまいました。

- A. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)のバッテリーが無くなったと思われます。本装置は電源投入時と以後 24 時間経過する度に MOVA 携帯電話機に充電を行います。しかし、通報先が電話に出ない場合、電話に出るまで電話をかけ直し続けます。これにより、バッテリーを消費してしまいます。また、MOVA 携帯電話機に電話がかかってきたりメールが届いたりすると MOVA 携帯電話機のバッテリーを消費します。着信の設定で、「着信音無し」、パイプレータの設定で「振動させない」にしてください。また、MOVA 携帯電話機の設定で「省電力モード」にしてください。

Q. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電池パックが最後まで無くなった場合。

- A. MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)の電池パックが最後まで無くなった場合、本体からの充電は出来なくなります。MOVA 携帯電話機を付属の充電器で充電してください。MOVA 携帯電話機の電池が無くなるのは通報先が電話に出ない為、リダイヤルを繰り返し電池が無くなったと思われます。通報先を工夫してリダイヤルを繰り返すことが無いように使用してください。

設定ソフトについてのご質問

Q. USB 変換ケーブルで転送 (又は読み込み) 出来ない

- A. ・USB 変換ケーブルのドライバーがパソコンに入っているか確認して下さい。
・通信ポートを確認して下さい。
設定画面内にある「通信ポート設定」を開き「通信ポートを自動的に検出する」のチェックを外します。そして「通信ポート指定」にある空 COM にチェックを入れて下さい。
(使用可能な COM のみ チェックが入る様になっています)

Q. 設定データが転送 (又は読み込み) 出来ない

- A. ・通信ポートを確認して下さい。
設定画面内にある「通信ポート設定」を開き「通信ポートを自動的に検出する」のチェックを外します。そして「通信ポート指定」にある空 COM にチェックを入れて下さい。
(使用可能な COM のみチェックが入る様になっています。)
・通信ケーブルは付属のケーブル (又は『9 ピンのストレート』) か確認して下さい。
購入時に付属している通信ケーブルは『9 ピンのストレート』です。市販されている物には『9 ピンのクロス』もございます。『9 ピンのクロス』では転送出来ません。(これらの区別は見ただ目では分かりません。テスターで確認して下さい。)

Q. 設定を転送するときに「バージョンが合いません」と表示されます。

- A. 本体と設定ソフトのバージョンの組み合わせが正しくない場合表示されます。バージョンを確認してください。バージョンが正しいのに表示される場合は、通信が正常に行われていない可能性があります。「通信ポート設定」で、「通信ポートを自動的に検出する」のチェックを外して、直接使用するポートを指定してください。

Q. 設定ソフトは、Windows98 で使用できますか。

- A. Windows98/Me/2000/XP/Vist で動作します。

Q. 設定ソフトで WL100 の設定ファイル(拡張子 WLD のファイル)を読み込めますか？

- A. できません。

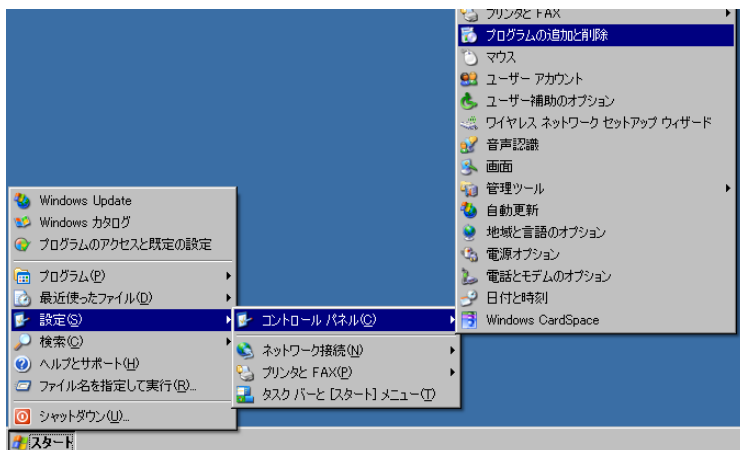
Q. 設定ソフトはついていないのですか？

- A. はい、ついていません。弊社ホームページ<http://www.adocon.jp/>の「設定ソフト」から WhiteLock21N のファイルをダウンロードし、任意のドライブに保存した後、ダブルクリックして実行してください。セットアッププログラムが実行されます。設定方法については16ページの「設定ソフトのインストール」からご覧下さい。

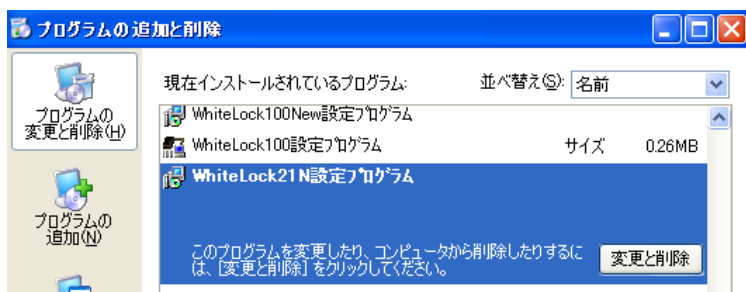
こんなときには

設定ソフトウェアのアンインストール

[スタート]メニューの、[設定(S)] から [コントロールパネル(C)]を選択して「アプリケーションの追加と削除」を開きます。



削除したいプログラム(WhiteLock21N 設定プログラム)を選択して、[変更と削除(R)...] ボタンをクリックして画面の指示に従います。



本体を清掃するときは

本体のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。
ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

仕様

「WhiteLock21N」 本体

形式	音声及びDTMF呼出方式非常通報装置
適用回線	「WL21ND」：MOVA携帯電話機(2012年3月末停波) 「WL21NA」：NTT仕様のアナログ電話回線(2線式)
回線接続方式	「WL21ND」：デジタル携帯電話コネクタ (PDC) 「WL21NA」：通信コネクタ (モジュージャック)
選択信号種別	プッシュボタン (PB) または、ダイヤルパルス (DP:20PPS) (「WL21NA」のみ)
動作設定	専用パソコンソフトで設定条件等をシリアル転送する
信号入力点数	8点 (無電圧接点、オープンコレクタ)
停電復電検出機能	本体内部に停電復電検出機能搭載
電池電圧低下	接点入力8に電池電圧低下検出機能
信号出力点数	4点 (有電圧接点出力、又は1秒間のパルス電圧出力)
自動発信	入力変化
携帯メール発信	可 (英数カナ漢字でメッセージを送出)
話し中検知機能	あり (話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル)
音声録音方式	圧縮無し直接録音方式
音声録音時間	16チャンネル装備。1チャンネル10秒、合計160秒
音声メモリバックアップ	不要 (フラッシュメモリー)
録音再生方法	イヤホンマイクを装備。録音・停止・再生ボタンによる
停電保証	内蔵電池により、1時間以上
MOVA携帯電話機充電機能	あり、繰り返し充電方式(「WL21ND」のみ)
制御CPU	8ビット3個のマルチCPU
外部インターフェース	シリアル9ピン(EIA-574)
電源	ACアダプタ AC100V 50/60Hz 5W
動作温度範囲	0℃～40℃
動作湿度範囲	15%～80% (結露なきこと)
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、カバー等で保護して下さい。
呼出電話番号設定	最大6カ所
停電保証充電電池	006P DC9V、ニッケル水素充電電池
寸法 (mm)	132(W)×150(H)×48(D)
重量	重量 約 540g MOVA携帯電話機を除く、電池込みの本体重量
動作電圧	9.5V～10.0V
消費電流	WL21NA : 80mA (最大200mA) WL21ND :

設定ソフトウェア

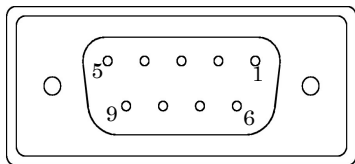
型式	WhiteLock21N 設定ソフトウェア
動作環境	Windows 98(SE)、Windows Me、Windows 2000(SP1以降)、 WindowsXP、WindowsVista 日本語のみ対応 メモリ 64M以上 ディスク空き容量 7M以上

インターフェース仕様

コネクタの形状は、9 ピン仕様の EIA-574 です。

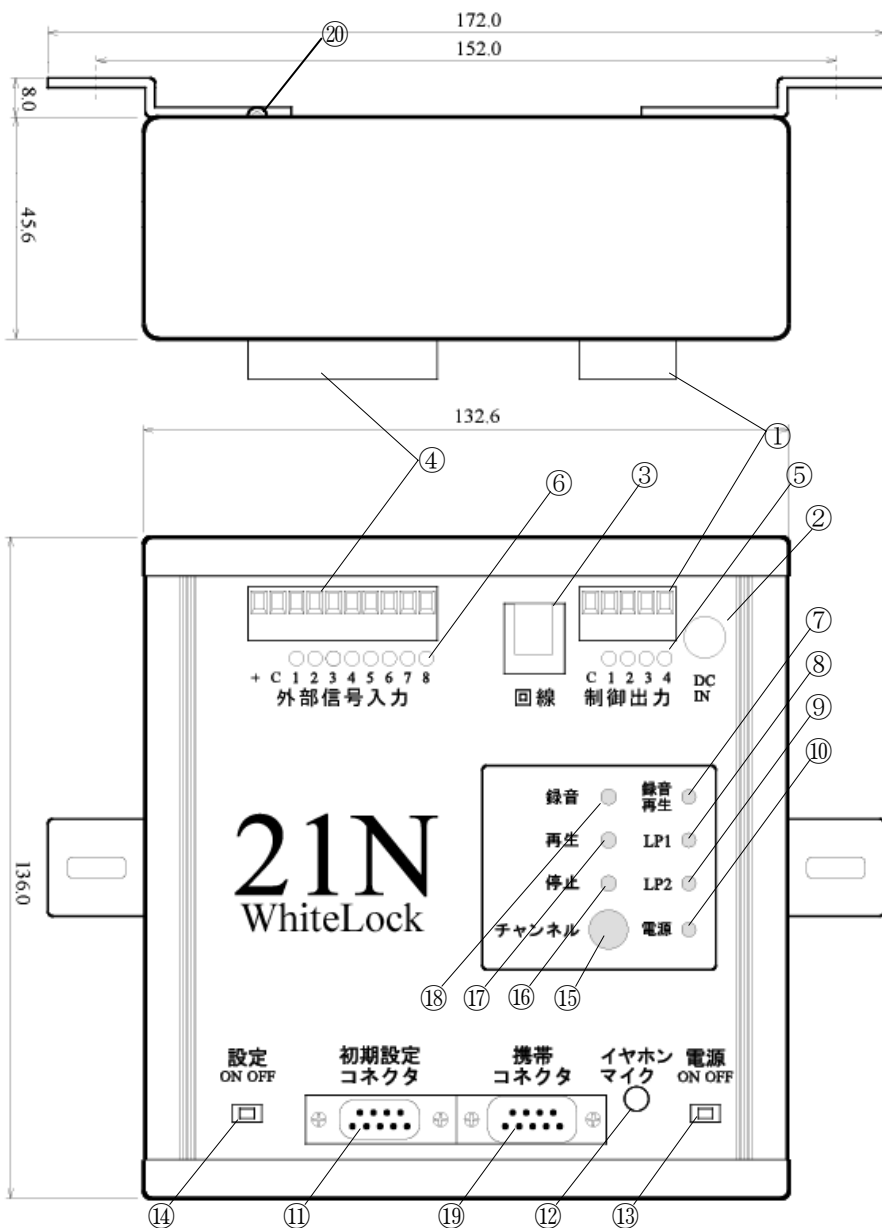
ピン記号	信号
1	CD
2	RD
3	TD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	RI

ピン番号は製品本体側を示す



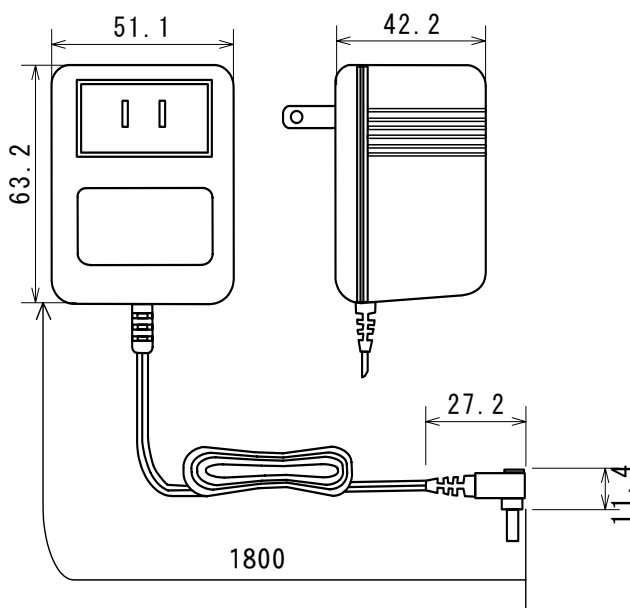
設定に使用するパソコンが、このコネクタを装備していない機種の場合(PC-9800 シリーズ等)は、別途変換コネクタ(D-SUB25 ピン → D-SUB9 ピン)をお買い求め下さい。

外形図



1	制御出力コネクタ	11	設定用シリアルコネクタ
2	電源直流入力コネクタ	12	録音再生用イヤホンマイクジャック
3	電話回線モジュージャック	13	電源スイッチ
4	外部信号入力端子	14	設定モード切替スイッチ
5	制御出力モニタランプ	15	録音再生・チャンネル切替スイッチ
6	外部信号入力モニタランプ	16	録音再生・停止押しボタンスイッチ
7	録音再生モニタランプ	17	録音再生・再生押しボタンスイッチ
8	動作モニタランプ1	18	録音再生・録音押しボタンスイッチ
9	動作モニタランプ2	19	メンテナンスコネクタ
10	電源ランプ	20	FG端子

ACアダプタ外形図



付録

文字コード

・フリーメッセージ

		2桁目									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1桁目	1	ア	イ	ウ	エ	オ	A	B	C	D	E
	2	カ	キ	ク	ケ	コ	F	G	H	I	J
	3	サ	シ	ス	セ	ソ	K	L	M	N	O
	4	タ	チ	ツ	テ	ト	P	Q	R	S	T
	5	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	U	V	W	X	Y
	6	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	Z	?	!	-	/
	7	マ	ミ	ム	メ	モ	¥	&	⌚	☎	☑
	8	ヤ	(	⌚	)	ヨ	*	#		♥	
	9	ラ	リ	ル	レ	ロ	1	2	3	4	5
	0	ワ	ヲ	ン	ッ	°	6	7	8	9	0

半角大文字英字、大文字カタカナ、数字、一部の記号が使えます。

「* 2 * 2」に続いて1桁目、2桁目をダイヤルする文字です。

ショートメールで7 8(時計)、7 0(コップ)の文字は使用できません。

パソコンで直接入力できない文字を使用する場合、7 8(時計)は「⌚」、7 9(電話)は「☎」、7 0(コップ)は「☑」、8 9(ハート)は「♥」を入力してください。

・区点コード

全角文字です。「#」に続いて4桁の数字をダイヤルする文字です。使用できる文字は携帯電話の取扱説明書の区点コード一覧を参照してください。

更新履歴

Ver2. 03 2003/7/18

- ・ 作成。

Ver2. 04 2003/7/24

- ・ 設定ソフトの画面を更新。

Ver2. 05 2003/10/6

- ・ 信号出力内部回路図を更新。
- ・ 停電保証時間についてを更新。

Ver2. 06 2003/10/24

- ・ 音声通報時#で通報終了。
- ・ パルス出力を 1 秒間に修正。
- ・ 「制御盤などに設置する場合」を追加。

Ver2. 07 2003/10/31

- ・ J-フォンをボーダフォンに変更。

Ver2. 08 2004/2/5

- ・ **Q&A** に追加。
- ・ 信号入力内部回路の図を修正。
- ・ ボーダフォンメールセンターを更新。
- ・ 「録音する内容」を修正。

Ver2. 09 2004/3/22

- ・ 仕様に動作電圧と消費電流を追加。

Ver2. 10 2004/5/11

- ・ 設定ソフト ver3. 1. 0 に対応。

Ver2. 11

- ・ バージョン情報を追加。

Ver2. 12 2004/10/01

- ・ au に関する項目を削除。
- ・ タダ電通報の料金を取られる場合の例を追加。
- ・ 「オプション電源」の名称を「センサー用電源出力」に変更
- ・ 回線接続方式を修正。
- ・ 選択信号種別を修正。
- ・ **Q&A** を追加。

Ver2. 13 2004/10/13

- ・ 例として載せていた電話番号を XXX に変更した。

Ver2. 16 2006/02/04

- ・ ホームページアドレスを追加。

Ver2. 17 2006/03/01

- ・ **Q&A** 追加、安全にお使いいただくために追加(電話番号の誤った登録についての注意)。

Ver2. 18 2006/11/21

- ・ **Q&A** 追加、安全にお使いいただくために追加(電話番号の誤った登録についての注意追記)。

Ver2. 19 2007/09/06

- ・ **PBX** 交換機関連について読みやすく修正

Ver2. 20 2010/01/20

- ・ 雷による故障について追加。
- ・ A タイプの使用できる回線に ADSL・IP・ひかり電話を追加。
- ・ ドコモショートメールに「SMS」の追加とスカイメール・スカイメッセージの削除。
- ・ 通報先に内線がある場合を追加。
- ・ 携帯メールセンターの編集を削除。
- ・ Q&A をホームページと並びや内容を揃えた。
- ・ クイックキャストは削除。
- ・ 「WhiteLock100New との違い」を削除。
- ・ 「更新履歴」と「バージョン」を昇順に変更。
- ・ D タイプに接続する携帯電話機を MOVA 携帯電話機(2012 年 3 月末停波)とした。
- ・ 自動転換器に推奨品「ナカ電子製品」を追加。
- ・ AC アダプタの外形図を追加。
- ・ 掲載順番を変更（動作設定を前に移動）。
- ・ A タイプで契約電話回線が NTT 以外の場合、メールセンターに接続出来ない事があると追加。

Ver2. 21 2010/11/16

- ・ SMS 削除
- ・ 内部回路図（入力信号）の修正
- ・ 「ショートメール」サービス終了のお知らせ

Ver2. 22 2011/11/11

- ・ 設定ソフトの仕様に Windows7 を追加
- ・ ナカ電子の自動転換器を販売品と追加
- ・ AC100V が無い環境での使用について、オプション品の DC/AC インバータを追加
- ・ ソフトウェアの CD-R からのインストール方法に補足
- ・ 端子台の説明を追加
- ・ その他細かいところの修正
- ・ 録音チャンネル「0～15」を「0～9・A～F」へ変更

Ver2. 23 2011/12/27

- ・ 設定ソフトの仕様で Windows7 を削除（使用出来ない為）
- ・ Q&A の修正

バージョン

WL21NA	WL21ND	取扱説明書	設定ソフト	日付
Ver 3.00/200		Ver 2.09	Ver 3.0.2	2004/03/22
Ver 3.00/300		Ver 2.10	Ver 3.1.0	2004/05/11
		Ver 2.11	Ver 3.1.0	2004/07/16
		Ver 2.12		2004/10/01
		Ver 2.13		2004/10/13
		Ver 2.16		2006/02/04
		Ver 2.17		2006/03/01
	Ver 3.00/1.16	Ver 2.18		2006/11/21
Ver 3.01/4.0	Ver 3.01/2.1	Ver 2.19	Ver 3.1.2	2007/09/07
		Ver 2.20		2010/01/20
		Ver 2.21		2010/11/16
		Ver 2.22		2011/11/11
		Ver 2.23		2011/12/27

WhiteLock21N

本書 Ver. 2.23

取扱説明書

改定 2011年 12月

発行元

株式会社 アドコン

<http://www.adocon.jp/>

本社

〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24

TEL (0852) 54-2036 FAX (0852) 54-2196